4-251-511-**02**(3)

ミニディスク・カセットデッキ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MDS-SE9

目次

本機はCMT-SE3とつないでお使いいただけるミニディスク・カセットデッキです。
CMT-SE3以外の機器とつないで使うことはできません。
お使いになるときはCMT-SE3に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

表示

パソコンにつないで使う

故障かな？と思ったら

その他

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- システムステレオやミニディスクなどを使用中、万一これらの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
  （お問い合わせ先：（社）私的録音補償金管理協会 Tel. 03-5353-0336）

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。
窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

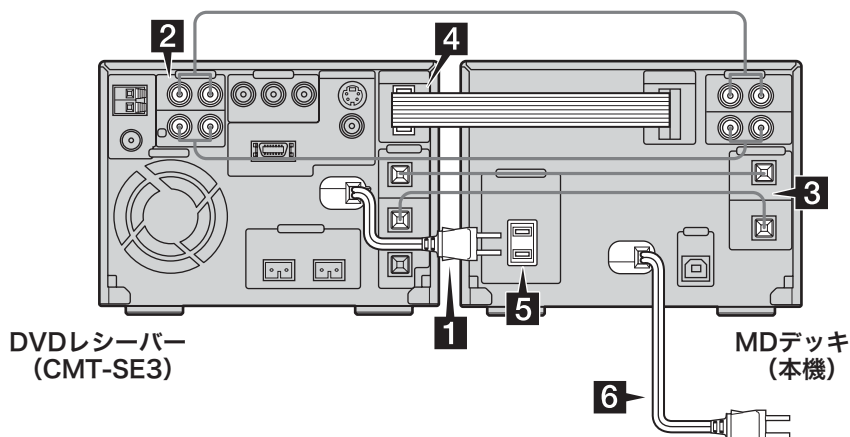
この取扱説明書の使いかた

- 操作を始める前に、「接続と準備」（5ページ）をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 本機は、CMT-SE3に付属のリモコンをお使いいただけます。この取扱説明書では、主にCMT-SE3に付属のリモコンによる操作を説明していますが、本体の同じ、または類似した名前のボタンを使っても同様の操作ができます。

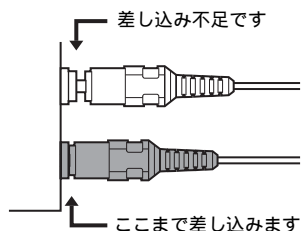
準備1：CMT-SE3につなぐ

1～6の手順で本機をCMT-SE3へつなぎます。

ご注意

- 正面から見てCMT-SE3を右に、本機を左に置いてください。
- 本機が正しく接続されてCMT-SE3の表示窓に「Connected MDS」が表示されると、CMT-SE3がお買い上げ時の設定に戻ります。ラジオ局のプリセットや時間合わせ、タイマー設定をやり直してください。ラジオ局のプリセットや時間合わせ、タイマー設定の操作についてはCMT-SE3に付属の取扱説明書をご覧ください。

1 CMT-SE3の電源を切り、電源コードを抜く

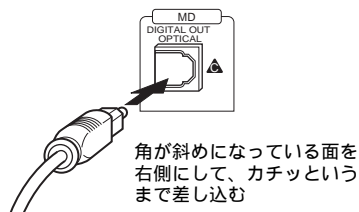
2 オーディオ接続コード（2本）をつなぐ

各機器についているアルファベット（A、B）が同じ端子どうしをつなぎます。端子とプラグの色を合わせ、プラグは根元までしっかり差し込んでください。

ちょっと一言

オーディオ接続コードをつなぐのは、各機器どうしでアナログ信号を送るためです。
信号は次のように送られます。
A端子：　CDやDVD、ラジオの音が本機に送られる
B端子：　MDやテープ、PCの音がCMT-SE3に送られる

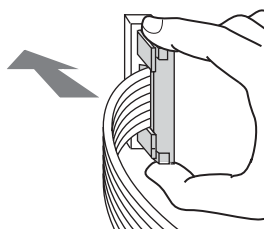
次のページへつづく

3 デジタル接続ケーブル（2本）をつなぐ

各機器についているアルファベット（C、D）が同じ端子どうしをつなぎます。

ちょっと一言

デジタル接続ケーブルをつなぐのは、各機器どうしでデジタル信号を送るためです。
信号は次のように送られます。
C端子： CDの音が本機に送られる
D端子： MDの音がCMT-SE3に送られる

4 システムケーブルをつなぐ

CMT-SE3のシステムコントロール端子にしっかりと差し込みます。
端子の向きを合わせ、カチッと音がするまで差し込んでください。

ご注意

システムケーブルは、本機とCMT-SE3を連動して動かすための信号送信用のケーブルです。しっかりと差し込まれていないと、正しく動作しません。

5 CMT-SE3の電源コードをつなぐ

本機の電源コンセントへCMT-SE3の電源プラグを差し込みます。

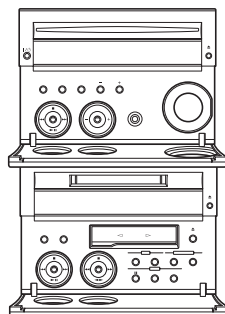
6 本機の電源コードをつなぎ、CMT-SE3のI/⏻（電源）を押して電源を入れる

すべての接続を終えたら、壁のコンセントへ電源プラグを差し込みます。
電源を入れると、CMT-SE3の表示窓に「Connected MDS」が表示されます。
「Connected MDS」が表示されないときは、手順1からやり直してください。
CMT-SE3の表示窓に「Connected MDS」が表示されると、CMT-SE3がお買い上げ時の設定に戻ります。ラジオ局のプリセットや時間合わせ、タイマー設定をやり直してください。ラジオ局のプリセットや時間合わせ、タイマー設定の操作についてはCMT-SE3に付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

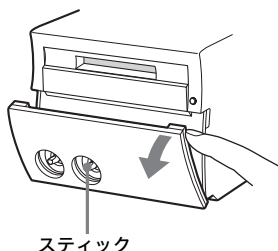
- 本機を接続するときは、CMT-SE3の電源を切り、電源コードを抜いてから接続してください。CMT-SE3の電源プラグがコンセントに差し込まれた状態で本機を接続しても、本機が正しく認識されません。
- CMT-SE3から本機をはずすときは、電源を切り、本機の電源コードを抜いてからシステムケーブルをはずしてください。本機の電源コードを抜く前にシステムケーブルをはずすと、本機とCMT-SE3の故障の原因となることがあります。

本機とCMT-SE3を重ねて置く

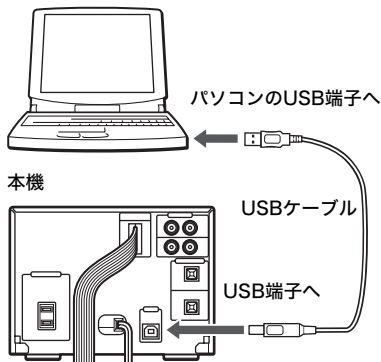
本機とCMT-SE3を重ねて置くときは、必ずCMT-SE3を上に置いてください。

リモコンの使い方

リモコンはCMT-SE3のリモコン受光部に向けて操作します。リモコン受光部の位置は、CMT-SE3に付属の取扱説明書「各部のなまえ」を参照してください。

本体のフタの開け方

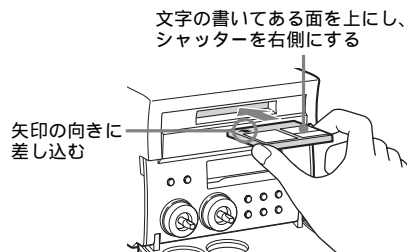
フタの上端を手前に引いて開けます。

準備2：本機とパソコンをつなぐ

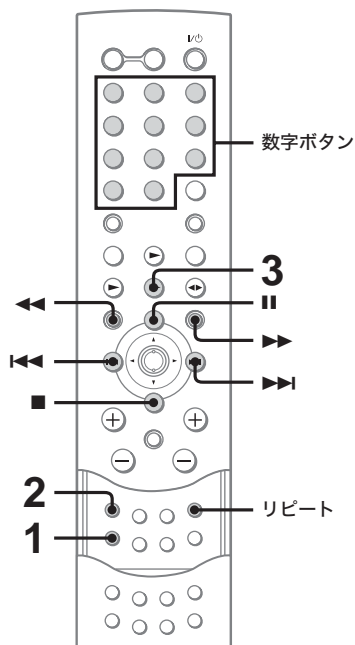
本機はパソコンとつないで楽しむこともできます。その場合は準備2を行ってください。
はじめてパソコンに接続するときは、USBケーブル（付属）をつなぐ前に付属のCD-ROMを使ってパソコンにソフトウェアをインストールしてください。インストールについてはCD-ROMケースの記載をご覧ください。次に、USB端子に貼られたラベルをはがし、USBケーブル（付属）を使って本機とパソコンを接続します。最後に本機の電源を入れます。
パソコンのハードディスクやCD-ROMドライブで再生した曲を、CMT-SE3につないだスピーカーで聞くことができます。また、インストールしたソフトウェアM-crewを使ってパソコンで本機とCMT-SE3を操作したり、「Net MD対応SonicStage」を使ってパソコンに保存した音楽データをMDに転送することができます（51ページ）。

次のページへつづく

ご注意

- USBケーブルをはじめにつないだときなどに、ドライバのインストールが始まることがあります。ドライバのファイルが見つからないというメッセージが表示されたときは、ドライバをインストールし直してください。
- 本機とパソコンをつないで操作するとき以外は、USBケーブルを外しておくことをおすすめします。
- パソコン側で音量を調節しても、本機の音量は調節できません。
- USBケーブルを接続すると、音声の出力先がパソコンから本機に切り換わります。パソコンで再生中の曲を停止し、USBケーブルを外すことで、出力先はパソコンに戻ります。本機でパソコンの曲を聞くには、PCファンクションにする必要があります。
- 付属品以外のUSBケーブルを使用したり、延長コネクタ等を用いてケーブルを延長した場合の動作保証は致しかねます。

MDを入れる

MDを入れる

MDを聞く

(ノーマル/シャッフル/リピート)

MDを再生しているときの表示例

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

次のページへつづく

2 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、好きな再生モードを選ぶ

こんなときは	表示（再生モード）
MD通りの曲順で再生する	表示なし（ノーマル）
曲順を本機が自動的に選んで再生する	SHUF（シャッフル）
好きな順に再生する	PGM（プログラム）「好きな曲順で聞く」（11ページ）をご覧ください。

3 MD►を押す

ご注意

再生中に再生モードボタンを押しても、再生モードは変えられません。

ちょっと一言

- 他の音源を聞いていても、MDが中に入っているときにMD►を押すと、ファンクションがMDに切り換わって再生が始まります（オートファンクション）。
- CMT-SE3のタイマー機能を使うと、目覚ましとして使用できます。詳しくは、CMT-SE3に付属の取扱説明書「目覚ましとして使う」をご覧ください。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■を押す。
一時停止する	❚❚を押す。もう一度押すと、再生を再開します。
曲を頭出しする	⏮または⏭をくり返し押す。
曲中の聞きたい部分を探す*	再生中に◀◀または▶▶を押し続け、聞きたいところで指を離す。
MDを取り出す	本体の⏏MDを押す。

* 本体で操作するときは、MDスティックを⏮または⏭方向に長押しします。

数字ボタンを使って曲番を選ぶ

再生モードがノーマルのときは、曲番の数字を押すと自動的に再生が始まります。
10以降の曲番を選ぶには、>10を押してから、表示窓で点滅している「–」の数だけ数字ボタンを押します。0を選ぶときは10/0を押します。
例：「––」が点滅しているときに6を選ぶときは、10/0、6を押す。
例：「––」が点滅しているときに20を選ぶときは、2、10/0を押す。

MDをくり返し聞く（リピート）

再生中にリピートボタンをくり返し押して「REP」または「REP1」を表示させる

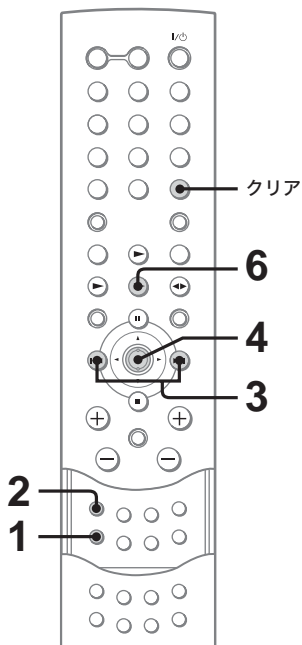
REP：　再生中のMDを全曲くり返します（5回まで）。
REP1：再生中の1曲だけをくり返します。

リピート再生をやめる

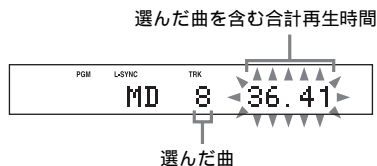
リピートボタンをくり返し押して、「REP」または「REP1」を消す。

好きな曲順で聞く

（プログラム）

最大25曲まで選んでプログラムできます。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、「PGM」を表示させる

3 ⏮または⏭をくり返し押して、プログラムしたい曲を選ぶ

4 決定ボタンを押す

選んだ曲がプログラムされます。
何曲目にプログラムされたか（Step数）が表示された後、最後にプログラムした曲番とプログラムした曲の合計再生時間が表示されます。

5 続けてプログラムするときは、手順3、4をくり返す

6 MD►を押す

プログラムした順に再生が始まります。

次のページへつづく

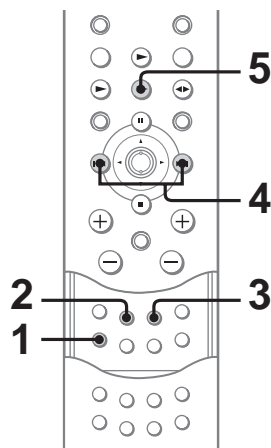
その他の操作

こんなときは	操作
ノーマル再生に戻す（ノーマル）	停止中に再生モードボタンをくり返し押して、「PGM」や「SHUF」を消す。
プログラムした曲順を確認する	プログラム再生中に⏮または⏭を押す。
プログラムした曲の総数を調べる	停止中に本体のDISPLAYを押す。プログラムした曲の合計数（Step数）が表示されます。
プログラムの最後に曲を追加する	停止中に手順3、4を行う。
プログラムを消す	停止中、または手順4の後でクリアボタンを押す。押すたびに最後にプログラムした曲が消えます。

ちょっと一言

- プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています。MD►を押すと、同じプログラムを聞けます。ただし、MDを取り出す、またはMDグループボタンを押すとプログラムは消えます。
- MDの合計再生時間が1,000分を超えたときは、「−−−.−−」と表示されます。

グループ内の曲を聞く

グループに登録したお気に入りの曲だけを聞くことができます。
グループ機能について詳しくは、「グループ機能について」（28ページ）をご覧ください。

1 **FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える**

2 **停止中にMDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる**

3 **グループスキップボタンをくり返し押して、聞きたい曲があるグループを選ぶ**

4 グループ内の途中の曲から聞きたいときは、I◀◀ または ▶▶Iをくり返し押して、曲を選ぶ

グループ内の1曲目から再生を始めるときは、手順5に進んでください。

5 MD▶を押す

再生が始まります。グループ内の最後の曲の再生が終わると、自動的に停止します。

ご注意

曲を登録していないグループを選んでMD▶を押すと、MD内の最初のグループの1曲目から再生が始まります。

ちょっと一言

グループ内の曲に限って、再生モード（ノーマル/シャッフル/リピート/プログラム）を選ぶことができます。手順3の前で再生モードを選んでください。

録音の前にお読みください

MD（ミニディスク）は、音質劣化の少ない「デジタル方式」で録音、再生を行います。また、CDにあるような曲番を付けることで、すばやい曲の頭出しや、録音した曲の編集ができます。

本機では音源によって、次のように録音を行い、曲番を付けます。

CMT-SE3に入れたCDから録音するとき

- デジタル録音をします*1。
  （ただし、マニュアル録音時はアナログ録音になります。）
- デジタル録音時は、曲番は自動的にCDと同じように付きます。ただし、曲によっては付かないことがあります（68ページ）。

CMT-SE3に入れたDVDやビデオCD、スーパーオーディオCD、MP3から録音するとき

- アナログ録音をします。ただし、ハイブリッドディスクのスーパーオーディオCDのCDレイヤーは、CDと同様にデジタル録音をします。
- 曲番は録音開始点にしか付きませんが、レベルシンクロ録音（22ページ）で「T.Mark LSync」にすると、録音レベルを検出して自動的に付きます。

次のページへつづく

CMT-SE3のVIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL入力端子につないだ別売りのデジタル機器（BSデジタル/デジタルCSチューナー、MDデッキなど）から録音するとき

- デジタル録音をします*[2]。
- 曲番の付きかたは録音する音源によって異なります。

本機のテープや、CMT-SE3のラジオ、VIDEO/SAT IN入力端子、MD/TAPE IN入力端子につないだ別売りの機器から録音するとき

- アナログ録音をします。
- 曲番は録音開始点にしか付きませんが、「T.Mark LSync」（22ページ）にすると、録音レベルを検出して自動的に付きます。

パソコンを使って録音するとき

Net MD機能を使ってMDへチェックアウト（転送）してください。詳しくは、付属のCD-ROM内のPDFファイル「Net MD対応SonicStage取扱説明書」をご覧ください。

録音済みのMDに録音するときは

録音済みの曲に上書きしながら録音することはできません。
録音済みの曲の後から録音されます。
録音済みの曲を消したいときはMD編集のERASE機能（35ページ）を使います。

MDの曲番について（TOC）

MDでは、曲番（曲順）や曲の開始/終了点などの情報を「TOC*[3]」と呼ばれる領域で、音楽とは別に管理しています。「TOC」の情報を書き換えるだけで曲の編集がすばやくできます。

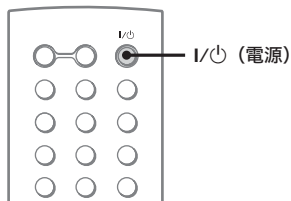
CDの読みとりエラーについて

- CMT-SE3で次のようなCDを使うと、読み取りエラーが起こり、ノイズなどが混入して正しく録音されない場合があります。
  ーシールなどが貼られている
  ー円形以外の形をしている（ハート形など）
  ーラベルの印刷が一方向にかたよっている
  ー傷がついている
  ー汚れている
  ー反っている
- 本機またはCMT-SE3の状態が次のようなときも、読み取りエラーが起こって正しく録音されない場合があります。
  ー本機やCMT-SE3を叩いた
  ー水平でないところや、柔らかいものの上に設置している
  ースピーカーやドアなど、振動源の近くに設置している
- 上記の読み取りエラーが起こったときに、無音の曲が余分に作られることがあります。余分に作られた曲は、MD編集のERASE機能（35ページ）を使って消すことができます。

*[1]デジタル録音には制約があります（68ページ）。
また、本機とCMT-SE3をデジタル接続ケーブルでつないでいない場合は、アナログ録音になります。
また、マニュアル録音（19ページ）の場合にもアナログ録音になります。

*[2]デジタル録音には制約があります（68ページ）。
PCM以外でエンコードされた音声はデジタル録音できません。別売りのデジタル機器をPCM出力に設定してください。
また、本機とCMT-SE3をデジタル接続ケーブルでつないでいない場合は、アナログ録音になります。

*[3]Table（テーブル） of（オブ） Contents（コンテンツ）の略（目次の意味）。

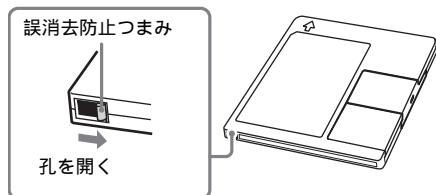
録音をした後は

本体の⏏MDを押してMDを取り出す、またはI/⏻（電源）を押して電源を切る

「TOC」が点滅し始め、録音の情報がMDへ書き込まれ、録音が完了します。

電源コンセントを抜く前に

MDへの録音は録音情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すか電源を切ると行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点灯または点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。録音情報が正しく記録されません。

MDの録音内容を消したくないときは

- 誤消去防止つまみをずらして孔を開きます。再び録音するときは、つまみを元の位置に戻します。

- MDが誤消去防止状態になっていると、「C11」と「Protected」が交互に表示され、録音できません。誤消去防止つまみを元の位置に戻して、孔をふさいでください。

録音時の制約について

長時間録音（MDLP録音）について

1枚のMDに録音できる長さを、2倍長（LP2）または4倍長（LP4）にして録音することができます（MDLP録音）。本体のREC MODEを押して録音モードを切り換えます。各録音のページで設定します（16、19、21ページ）。

MDLP録音した曲は、下記のマークが印刷された機器でのみ再生できます。
非対応機器では再生できません。

MDLP　MDLP

ご注意

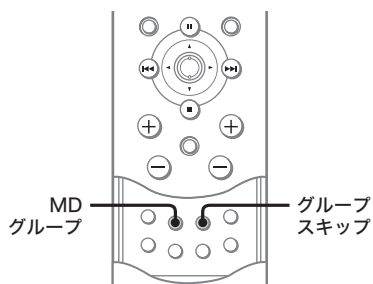
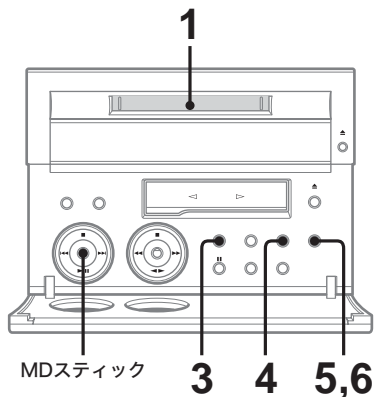
- 録音モードを「MONO」にしても、スピーカーからは音源のままの音声（ステレオ信号録音時はステレオ音声）が聞こえます。
- MDLP録音したMDをMDLP非対応機器で再生しようとしたときに、「LP:」と表示して再生できないことがわかるように編集されたMDがあります。それらのMDを再生すると、本機はMDLPに対応しているため、「LP:」は表示されません。
- MDLP非対応機器で再生する場合、SonicStageのチェックアウト時に転送モードを「ステレオ転送」にしてください。LP2/LP4で転送した場合、MDLP非対応機器では再生できません。

ちょっと一言

- LP4ステレオ録音は、特殊な圧縮方式によって長時間録音を実現しています。音質を重視するときは、ステレオ録音またはLP2ステレオ録音をおすすめします。
- 1枚のMDに各録音モードを混在させて録音することもできます。
- 選んだ録音モードは録音が終了しても保持されます。変更する場合は、本体のREC MODEをくり返し押して録音モードを切り換えてください。

ディスクを録音する

（CD-MDシンクロ録音）

1枚のCDをそのままMDにデジタル録音できます。また、録音モードを切り換えて、MDに録音できる長さを選ぶこともできます。

1 録音用のMDを入れる

2 CMT-SE3にCDを入れる

3 REC MODEをくり返し押して、録音モードを選ぶ

録音モードを切り換えて録音できる長さを選ぶことができます。

こんなときは	表示（録音モード）
標準の長さで録音する	表示なし （ステレオ録音）
標準の2倍の長さで録音する	LP2 （LP2ステレオ録音）
標準の4倍の長さで録音する	LP4 （LP4ステレオ録音）
ステレオ信号をモノラルに変換して録音する（標準の2倍の長さで録音します）	MONO （モノラル録音）

4 MODEをくり返し押して、「CD→MD SYNC」を表示させる

5 ENTER/STARTを押す

「Press START」が点滅します。MDが録音一時停止に、CDは再生一時停止になります。

6 「Press START」が点滅しているのを確認してからENTER/STARTを押す

録音が始まります。
録音が終わると、CD、MDとも自動的に停止します。

録音を止める

MDスティックで■を選ぶ。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、MDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順5の後、グループスキップボタンをくり返し押して「New Group」（新しいグループ）、または録音したいグループを選び、手順6へ進みます。

CDの好きな曲だけを録音するには

CDのプログラム再生機能を使って、好きな曲を選んでから録音することもできます。手順2と3のあいだで、CMT-SE3に付属の取扱説明書「好きな順に再生する」の手順1〜5の操作を行います。

ご注意

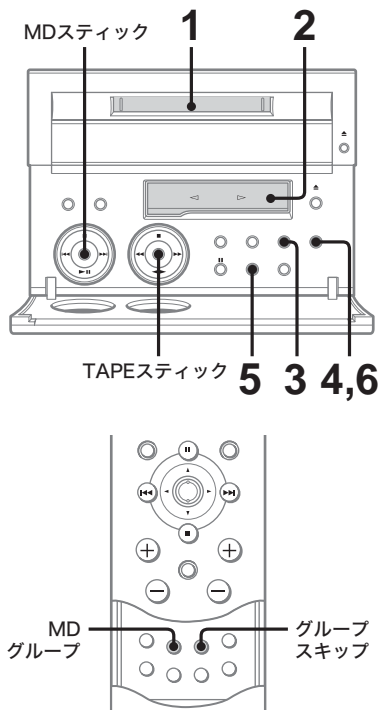
- DVDでは、この録音はできません。マニュアル録音（19ページ）の手順にしたがって録音してください。
- ビデオCD、スーパーオーディオCD（CDレイヤーを除く）、MP3の場合は、アナログ録音になります。
  また、レベルシンクロ録音（22ページ）で「T.Mark LSync」にした場合、実際の曲数よりも多く曲番が付くことがあります。
- 録音を一時停止することはできません。
- ディスクの再生モードがリピートやシャッフルになっているときは、手順5で自動的にノーマル再生に切り換わります。
- ビデオCDの場合、PBC再生は自動的に解除されます。
- CDまたはスーパーオーディオCDのCDレイヤーをシンクロ録音中は、以下の機能が働きません。
  ー トラックマーク機能
  ー オートカット機能
- 「Setup Menu」で設定した録音レベルの設定値にかかわらず、録音レベルは0.0dBで録音されます。

ちょっと一言

LP2/LP4ステレオ録音について、詳しくは「長時間録音（MDLP録音）について」（15ページ）をご覧ください。

テープを録音する

（TAPE-MDシンクロ録音）

テープをそのままMDにアナログ録音できます。TYPE I（ノーマル）のテープが使えます。

1　録音用のMDを入れる

2　テープを入れる

3　MODEをくり返し押して、「TAPE→MD SYNC」を表示させる

次のページへつづく

4 ENTER/STARTを押す

「Press START」が点滅します。
MDが録音一時停止に、テープは再生一時停止になります。

テープの再生面*

* 両面またはおもて面を再生するときは►、うら面を再生するときは◄が表示されます。表示と逆の面から再生したいときは、TAPEスティックで■を選びテープの面を逆に入れ直し、手順3からやり直してください。

5 DIRECTIONをくり返し押して、片面再生（⇄）か両面再生（⥂または⥃）を選ぶ

6 「Press START」が点滅しているのを確認してからENTER/STARTを押す

録音が始まります。
録音が終わると、テープ、MDとも自動的に停止します。

録音を止める

MDスティックで■を選ぶ。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、MDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順5の後、グループスキップボタンをくり返し押して「New Group」（新しいグループ）、または録音したいグループを選び、手順6へ進みます。

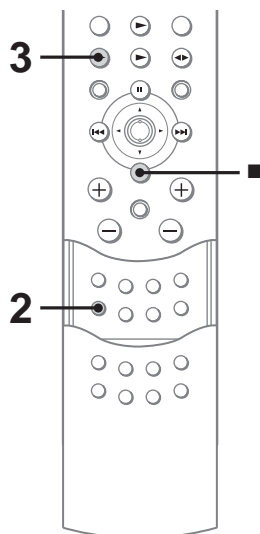
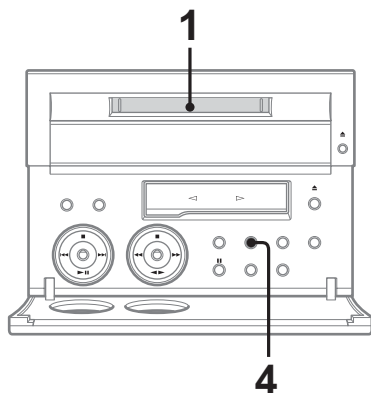
演奏中の曲を録音する

（レックイット）

CMT-SE3で再生中のディスクの音を聞きながら、気に入った曲をその場でMDに録音できます。
ディスクの再生については、CMT-SE3に付属の取扱説明書をご覧ください。

好きなところから録音する

（マニュアル録音）

本機のテープやCMT-SE3のDVDやCD、ラジオ、またはつないでいる別売り機器の好きなところから録音することができます。

1 録音用のMDを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをDVDに切り換える

3 SA-CD/DVD►を押す

ディスクの再生が始まります。

4 録音したい曲を聞きながらREC/REC ITを押す

その曲の頭に戻り、録音が始まります。録音中の曲が終了すると、MDは自動的に停止します。

録音を止める

■を押す。

各ディスクからのレックイットについて

- DVD/ビデオCD/MP3：アナログ録音になります。
  アナログ録音では、ディスクや曲の状態によっては余分な曲が作られることがあります。DVDの場合では、ディスクによってレックイットができなかったり、曲単位の録音にならない場合があります。
- スーパーオーディオCD：CDレイヤーは、CDと同様にレックイット（デジタル録音）ができます。CDレイヤー以外はアナログ録音になります。
  アナログ録音では、ディスクや曲の状態によっては余分な曲が作られることがあります。

ご注意

- CDまたはスーパーオーディオCDのCDレイヤーをレックイット中は、以下の機能が働きません。
  ー トラックマーク機能
  ー オートカット機能
- 「Setup Menu」で設定した録音レベルの設定値にかかわらず、録音レベルは0.0dBで録音されます。

次のページへつづく

1 録音用のMDを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

- DVD：CMT-SE3のディスクの音を録音する
- TAPE：本機のテープの音を録音する
- TUNER：CMT-SE3のラジオの音を録音する
- VIDEO（SAT）：CMT-SE3につないだ別売り機器の音をデジタルまたはアナログ録音する

3 REC MODEをくり返し押して、録音モードを選ぶ

録音モードを切り換えて録音できる長さを選ぶことができます。

こんなときは	表示（録音モード）
標準の長さで録音する	表示なし（ステレオ録音）
標準の2倍の長さで録音する	LP2（LP2ステレオ録音）
標準の4倍の長さで録音する	LP4（LP4ステレオ録音）
ステレオ信号をモノラルに変換して録音する（標準の2倍の長さで録音します）	MONO（モノラル録音）

4 REC/REC ITを押す

MDが録音一時停止になります。

5 MD►を押してから、録音したい音源の再生を始める

録音を止める

■を押す。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、MDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順4の後、グループスキップボタンをくり返し押して「New Group」（新しいグループ）、または録音したいグループを選び、手順5へ進みます。

ご注意

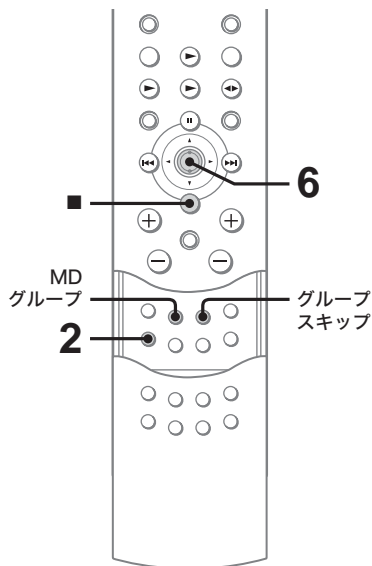
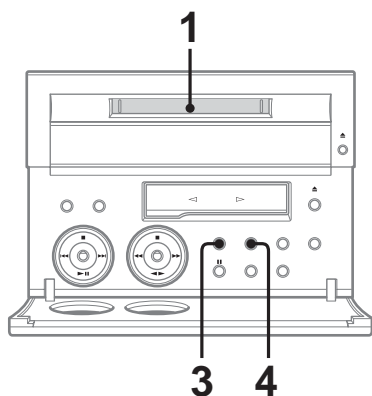
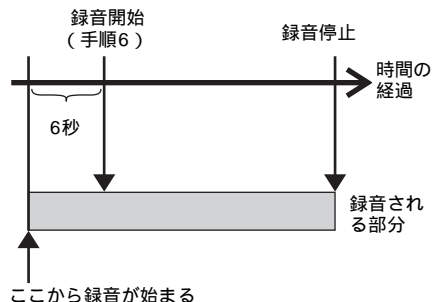
CDからの録音もアナログ録音になります。

ちょっと一言

- CMT-SE3のディスクを曲の途中からマニュアル録音したいときは、手順4の前に録音を開始したいところで❚❚を押してディスクの再生を一時停止し、手順5でもう一度SA-CD/DVD►を押して再生を始めます。
- 録音中にDISPLAYを押すと、MDの残り時間を見ることができます。
- AM放送を録音中に「ピー」や「ザーザー」という雑音が出るときは、CMT-SE3付属のAMアンテナを雑音の消える位置に動かしてください。
- LP2/LP4ステレオ録音について、詳しくは「長時間録音（MDLP録音）について」（15ページ）をご覧ください。
- 録音される音の大きさをお好みで調節できます（25ページ）。
- CMT-SE3のタイマー機能を使って、CMT-SE3のラジオから本機のMDへタイマー録音ができます。詳しくは、CMT-SE3に付属の取扱説明書「タイマーを使って録音する」をご覧ください。
- CMT-SE3でスリープタイマーを「AUTO」に設定しているときは、ディスクまたはテープの再生が終了すると自動的に電源が切れます。

6秒前の音から録音する

（タイムマシン録音）

入力されている音を本機のメモリーに蓄えておくことにより、録音開始の6秒前の音から録音することができます。衛星放送やFM放送などのエアチェックで、録音を始めるタイミングが遅れて頭の部分を録音し損なうのを防ぐのに便利です。

1 録音用のMDを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

3 REC MODEをくり返し押して、録音モードを選ぶ

録音モードを切り換えて録音できる長さを選ぶことができます。

こんなときは	表示（録音モード）
標準の長さで録音する	表示なし （ステレオ録音）
標準の2倍の長さで録音する	LP2 （LP2ステレオ録音）
標準の4倍の長さで録音する	LP4 （LP4ステレオ録音）
ステレオ信号をモノラルに変換して録音する（標準の2倍の長さで録音します）	MONO （モノラル録音）

次のページへつづく

4 REC/REC ITを押す

MDが録音一時停止になります。

5 録音したい音源の再生を始める

6 録音を始めたいところで、決定ボタンを押す

この手順を行う6秒前にさかのぼって録音を始めます。

タイムマシン録音を止める

■を押す。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、MDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順4の後、グループスキップボタンをくり返し押して「New Group」(新しいグループ)、または録音したいグループを選び、手順5へ進みます。

ご注意

- CMT-SE3に入れたDVDやCDなどのディスクをタイムマシン録音することはできません。
- 本機は、手順4で録音一時停止の状態になった時点から、入力されている音をメモリーに蓄え始めます。録音一時停止状態になってから6秒以上経過した後で録音を始めないと、6秒前の音から録音できません。

ちょっと一言

LP2/LP4ステレオ録音について、詳しくは「長時間録音（MDLP録音）について」（15ページ）をご覧ください。

頭出しマーク（曲番）を付ける

録音後に付ける

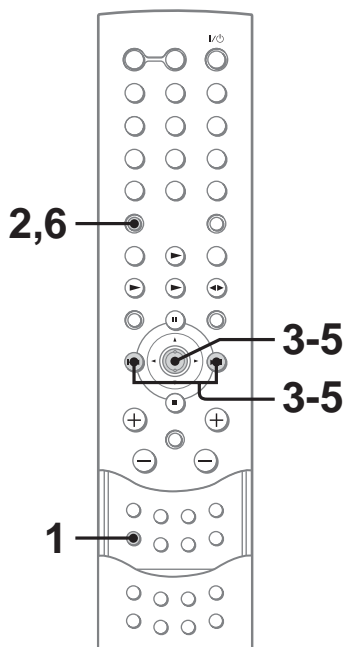
MDのDIVIDE機能（41ページ）を使います。

録音中に好きなところに付ける（トラックマーク）

マニュアル録音中、好きなところに曲番を付けられます。

マニュアル録音中に、曲番を付けたいところで本体のREC/REC ITを押す

録音前に自動で付くように設定する（レベルシンクロ録音）

お買い上げ時はレベルシンクロ録音機能が働くよう設定されていますので、自動的に曲番が付きます。音源からの入力信号が約2秒以上続けて一定レベル以下になり、再び、そのレベルを越えたときに付きます。録音時、表示窓に「L-SYNC」と表示されていないときは、以下の手順でレベルシンクロ録音機能が働くよう設定してください。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「Setup?」を表示させ、決定ボタンを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して「T.Mark Off（またはT.Mark LSync）」を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「T.Mark LSync」を表示させ、決定ボタンを押す

「L-SYNC」が点灯します。

6 MENU/NOを押す

続けて録音するときは、それぞれの録音のページにある手順にしたがって操作します。

その他の操作

こんなときは	操作
自動的に曲番を付けるのをやめる	手順5で「T.Mark Off」を表示させ、決定ボタンを押す。
入力信号の検出レベルを変更する*	手順1～3の後、⏮または⏭をくり返し押して「LS(T)」を表示させ、決定ボタンを押す。⏮または⏭をくり返し押して入力信号レベルを－72dBから0dB（2dB単位）の範囲で選び、決定ボタンを押し、MENU/NOを押す。

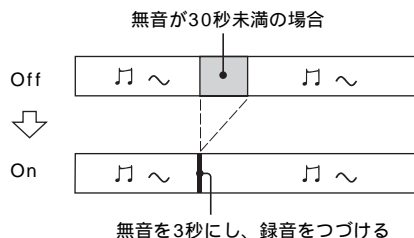
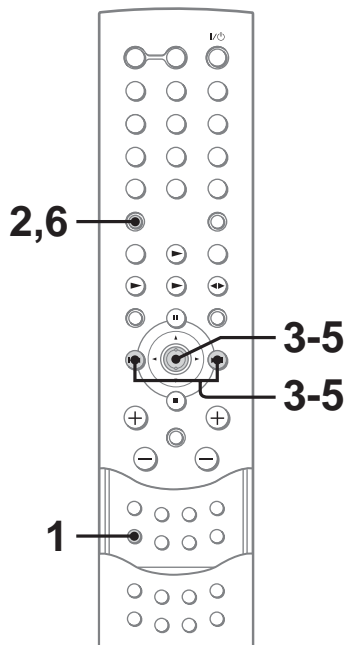
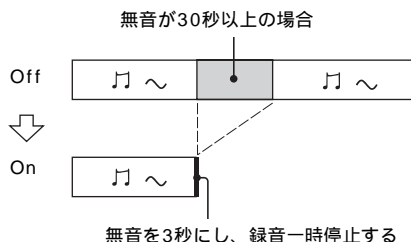
* テープやラジオなど、雑音が多く曲番が付きにくいときは設定レベルを上げると曲番が付きやすくなります。お買い上げ時は－50dBに設定されています。

ご注意

- 曲によっては付かないことがあります。
- テープやラジオなどの音源で雑音が多いときは自動では付かないことがあります。
- CDから録音するときに録音を一時停止すると、そこに曲番が付きます。また、同じCDの同じ曲を続けて録音すると、曲番が1つしか付かないことがあります。

自動的に曲間をそろえる

(スマートスペース)

CDのデジタル録音時は、自動的に曲間がそろいます。その他の録音をしているときは、スマートスペースをOnに設定すると、録音中に約3秒以上(約30秒未満)の無音状態が続いたときに、無音部分を約3秒に短縮して録音します。
お買い上げ時は「On」に設定されています。

オートカット:スマートスペースをOnに設定すると、約30秒以上の無音が続いたとき、無音部分が約3秒に短縮され、録音一時停止状態になります。

1 **FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える**

2 **MENU/NOを押す**

3 **⏮または⏭をくり返し押して「Setup?」を表示させ、決定ボタンを押す**

4 **⏮または⏭をくり返し押して「S.Space Off(またはS.Space On)」を表示させ、決定ボタンを押す**

5 **⏮または⏭をくり返し押して「S.Space On」を表示させ、決定ボタンを押す**

6　MENU/NOを押す

続けて録音するときは、それぞれの録音のページにある手順にしたがって操作します。

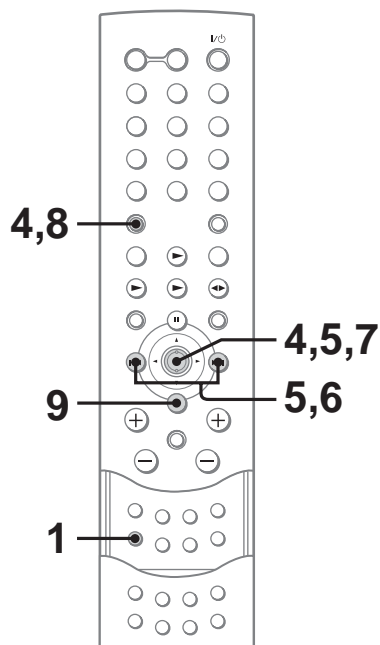
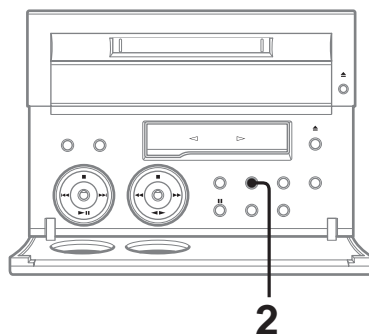
自動的に曲間をそろえるのをやめる

手順5で「S.Space Off」を表示させ、決定ボタンを押す。

録音レベルを調節する

MDに録音するときに、お好みで録音される音の大きさが調節できます。

MD — 録音

次のページへつづく

1 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

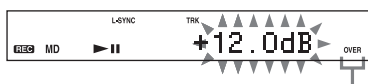
2 REC/REC ITを押して録音一時停止にする

3 録音したい音源の再生を始める

4 MENU/NOを押して「Setup?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「LevelAdjust?」を表示させ、決定ボタンを押す

6 ⏮または⏭を押して、録音される音の大きさを調節する

一番大きい音のとき、表示窓に「OVER」が点灯しないようにします。

「OVER」が点灯しないように調節する

7 決定ボタンを押す

8 MENU/NOを押す

9 ■を押して、MDを停止させる

続けて録音するときは、それぞれの録音のページにある手順にしたがって操作します。

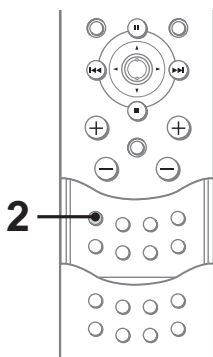
ちょっと一言

- 録音中にも、録音レベルを調節できます。
- 調節した録音レベルは次に調節するまで保持されます。
- シンクロ録音時とレックイット時は、この機能は働きません。

編集の前にお読みください

編集を始める前に

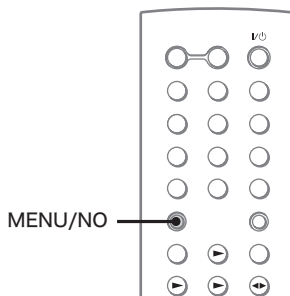
MDの編集をするには、下記が必要です。
- MDが書き込み可能な状態になっている。
- MDの再生モードがノーマル再生になっている。

編集を始める前に、必ず次の手順で上記を確認してください。

1 MDが誤消去防止状態になっていないか確認する

誤消去防止状態になっているときは、つまみを動かして孔をふさぎます。
MDが誤消去防止状態になっているときは、編集はできません。

2 再生モードボタンをくり返し押し、「SHUF」または「PGM」を消して、ノーマル再生にする

編集はノーマル再生のときのみできます。シャッフルまたはプログラム再生中は、編集はできません。

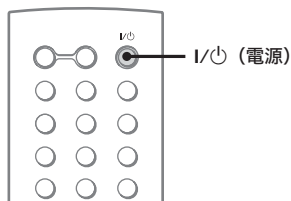
編集をするときは

「Tr Protect」が表示されたときは

Net MD機器でチェックアウトした曲などは、曲が保護されているため、一部のMD編集機能は使用できません。

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

次のページへつづく

編集をした後は

本体の⏏MDを押してMDを取り出す、またはI/⏻（電源）を押して電源を切る

「TOC」が点滅し始めます。編集の情報がMDへ書き込まれ、編集が完了します。

電源コンセントを抜く前に

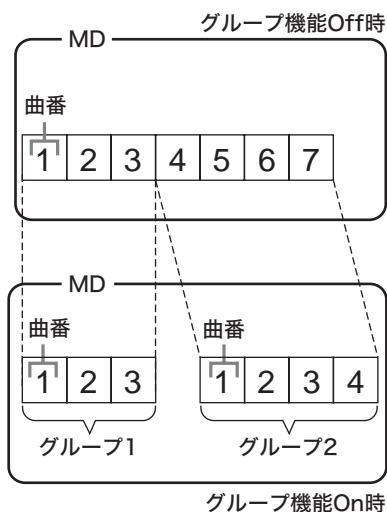
MDの編集は編集情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すか電源を切ると行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。編集情報が正しく記録されません。

ご注意

- MD-TAPEシンクロ録音中は編集できません。
- MDをテープにマニュアル録音中にMDの編集を行うと、編集中に生じた音（リハーサル音など）はそのまま録音されます。

グループ機能について

グループ機能とは?

1枚のMDの中の曲をグループに分けて再生、録音、編集できる機能です。例えば、MDの中の1曲目から5曲目を「Rock」というグループにし、6曲目から9曲目を「Pops」というグループにして好きなグループの曲だけ聞いたり、新しい曲をグループに追加したりすることができます。また、MDグループボタンでグループ機能のOn/Offができるので、この機能を使う、使わないを切り換えることもできます。

グループ機能を使ってグループに分けると、各グループの曲番は1から順に付け直されます。

上図の例では、グループ機能Off時の曲番4、5、6、7は、グループ機能On時にはグループ2の曲番1、2、3、4となります。

グループ機能を使った操作

- グループ内の曲を聞く（12ページ）
- ディスクを録音する（16ページ）
- テープを録音する（17ページ）
- 好きなところから録音する（19ページ）
- ６秒前の音から録音する（21ページ）
- グループに名前を付ける（30ページ）
- 新しいグループを作る（33ページ）
- グループ登録を解除する（34ページ）

ご注意

本機のグループ機能を使って録音したMDは、他のグループ機能対応機器でもお使いいただけます。ただし、機器によってはグループ機能の動作が本機とは異なる場合があります。

グループ情報はどのように記録されているの?

グループ機能を使って録音すると、グループ管理情報は、「ディスク名」として自動的にMDに記録されます。具体的には以下のような文字列がディスク名の記録領域に書き込まれています。

ディスク名の記録領域

① ディスク名を「Favorites」にする。
② 1曲目から5曲目を「Rock」という名のグループに入れる。
③ 6曲目から9曲目を「Pops」という名のグループに入れる。

そのため、グループ機能を使って録音したMDを、グループ機能非対応機器や、グループ機能をOffにして本機で読み込むと、上の文字列がそのまま「ディスク名」として表示されます。

もしNAME機能を使ってこの文字列を誤って書き換えてしまうと、そのMDではグループ機能が使えなくなる場合***がありますのでご注意ください。**

* この場合は「GROUP ON」が点滅します。再びグループ機能を使うには「すべてのグループを一度に解除する」（35ページ）を行って、すべてのグループ登録を解除して登録し直してください。

「Group Full!」と表示されるときは

グループ管理に必要な文字数が不足しているため、録音ができません。不要な文字（ディスク名または曲名）を消す（32ページ）と、グループに録音できるようになります。

ご注意

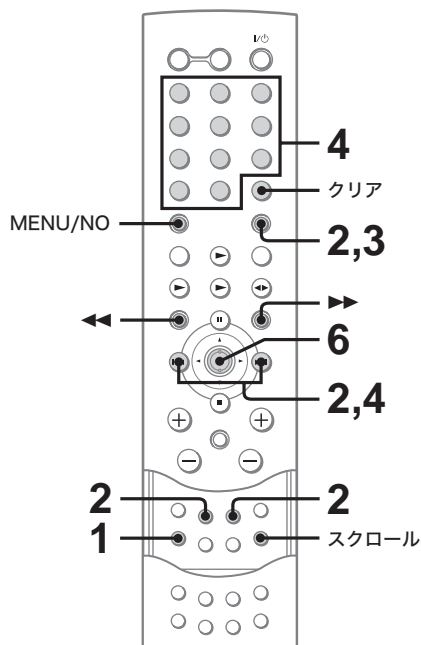
- グループ機能の設定は、MDを取り出したり、本機の電源を切ったりしても記憶されています。
- グループ機能がOnのときは、グループに登録されていない曲は表示、再生できません。
- グループの順番を変えることはできません。
- すでに曲が記録されている別のグループがある場合、新しいグループはその後ろに追加されます。
- 既存のグループに曲を追加するとグループ内の最後の曲の後に曲が追加されます。
- 1枚のMDの中には99グループまで登録できます。
- 既存のグループに曲を追加録音すると、グループ機能を解除したときに、追加録音した曲以降の曲番が変わることがあります。
- グループ管理情報が正しいフォーマットで記述されていないMDを挿入すると、「GROUP ON」が点滅します。この場合、グループ機能を使えません。

ディスク名や曲名、グループ名を付ける

（NAME）

CD-MDシンクロ録音（16ページ）をすると、CDのTEXT情報（曲名）が自動的に記録されます。
ただし、CDによってはTEXT情報が自動的に記録されないことがあります。また、レックイット（18ページ）を使うと、DVDやスーパーオーディオCDのTEXT情報も自動的に記録することができます。MP3のTEXT情報は、自動的に記録されません。この場合は、録音後に曲名を付けてください。
ディスク名や曲名を録音後に付けるには、MD編集のNAME機能（このページ）を使います。

録音後に付ける

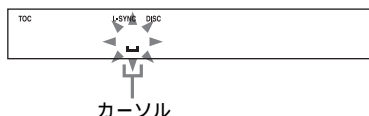
1枚のMDに、ディスク名、曲名、グループ名を計約1,700文字、カナ文字のみで約800文字まで入力できます。
ただし、グループ機能を使って録音したMDにディスク名を付けるときは、グループ管理情報を誤って書き換えてしまわないように、グループ機能を働かせた状態（30ページ手順2）でディスク名を付けてください。
グループ管理情報について詳しくは、「グループ情報はどのように記録されているの?」（29ページ）をご覧ください。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 付けたい名前（曲名/ディスク名/グループ名）によって、以下のように操作する

曲名を付けるには
⏮または⏭をくり返し押して、名前を付けたい曲番を選び、NAME EDIT/SELECTを押す。

ディスク名を付けるには
総曲数（グループ機能が働いているときは、総グループ数）が表示されているときに、NAME EDIT/SELECTを押す。

グループ名を付けるには

MDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させてから、グループスキップボタンをくり返し押して名前を付けたいグループを選ぶ。グループの総曲数が表示されているときに、NAME EDIT/SELECTを押す。
文字入力画面になり、カーソルが点滅します。

3 NAME EDIT/SELECTをくり返し押して、文字の種類を選ぶ

文字の種類（表示順）	表示
アルファベット大文字/スペース/記号	Selected AB
アルファベット小文字/スペース/記号	Selected ab
カタカナ/カタカナ小文字*1/濁点・半濁点/一部の記号*2	Selected ア
数字	Selected 12

*1 カタカナ小文字はアイウエオヤユヨツのみ入力できます。
*2「– ,.」のみ入力できます。

4 入力したい文字に対応するアルファベット/数字/カタカナ入力ボタンを押す

文字の種類	操作
アルファベット/カタカナ	入力したい文字や行がある数字ボタン（または⏮/⏭）をくり返し押して希望の文字を表示させ、▶▶を押す。
数字	入力したい数字の数字ボタンを押す。
濁点（゛）/半濁点（゜）*/一部の記号	>10ボタンをくり返し押して、濁点・半濁点、一部の記号を選ぶ。
スペース（空き）	10/0ボタンを押す。
記号' –/,.（）：！？	数字ボタン1をくり返し押して、記号を選ぶ。
記号＆＋＜＞＿＝"；＃＄%@＊`	数字ボタン1を押してから、⏮/⏭をくり返し押して記号を選ぶ。

* 濁点は「ウ」、「カ/サ/タ/ハ行」、半濁点は「ハ行」の文字の後にのみ入力できます。

5 手順3、4をくり返して、名前を付ける

6 決定ボタンを押す

途中でやめる

MENU/NOを押す。

文字を消して変更する

手順3、4中に、◀◀または▶▶をくり返し押して変更したい文字を点滅させ、クリアボタンを押して文字を消してから手順3、4をくり返す。

次のページへつづく

文字を追加する

手順1、2の後、文字を追加したいところまで◀◀または▶▶をくり返し押してカーソルを動かし、手順3へ進む。

ご注意

ディスク名に、「abc//def」のように「//」を文字の間に入れると、グループ機能が使えなくなる場合がありますのでご注意ください。

ちょっと一言

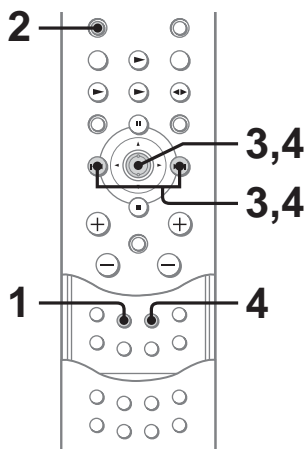
曲名は再生中でも付けられます。名前を付け終わるまで再生がくり返されます。

付けた名前を確認する

ディスク名は停止中に、曲名は再生中にスクロールボタンを押すと、表示窓に名前が横に流れます（スクロール）。

グループ名を確認するときは、停止中にMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、グループスキップボタンをくり返し押して、名前を確認したいグループを選び、スクロールボタンを押します。

スクロール中にスクロールボタンを押すと、流れている名前が止まります。もう一度押すと、再びスクロールします。

付けた名前を消す

1 グループ名を消すときは、停止中にMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させる

2 停止中にMENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「Nm Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

4 消したい名前によって以下のように操作する

ディスク名を消すときは

⏮または⏭をくり返し押して「Nm Ers Disc」を表示させ、決定ボタンを押す。

曲名を消すときは

⏮または⏭をくり返し押して名前を消したい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す。

グループ名を消すときは

グループスキップボタンをくり返し押して、名前を消したいグループ番号を選び、決定ボタンを押す。

「Complete!」が数秒間表示されて、付けた名前が消えます。

途中でやめる

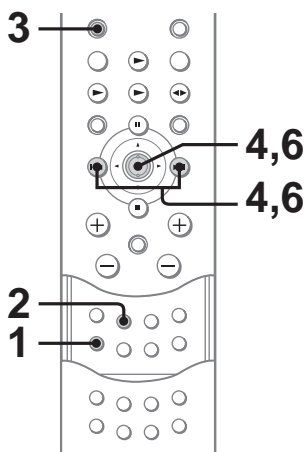
MENU/NOを押す。

ご注意

曲が登録されていないグループの名前は消すことができません。

新しいグループを作る

(CREATE)

曲の入っていないグループを新しく作ったり、新しいグループを作って、録音済みの曲を登録したりすることができます。グループ登録されていない、連続した曲のみで登録できます。
グループ機能について詳しくは、「グループ機能について」（28ページ）をご覧ください。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる

3 MENU/NOを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して、「Gp Create?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（30ページ）の手順3〜6を行う

6 ⏮または⏭をくり返し押して、「Assign None」を表示させ、決定ボタンを押す

途中でやめる
MENU/NOを押す。

ご注意
曲の登録をしないでグループを作るときは、必ずグループ名が必要です。

グループに曲を登録する

手順6で⏮または⏭をくり返し押して、登録したい最初の曲番を選び、決定ボタンを押す

1曲のみ登録するときは、もう一度決定ボタンを押します。
2曲以上を登録するときは、⏮または⏭をくり返し押して、登録したい最後の曲番を選び、決定ボタンを押します。

ご注意
- 1つの曲を複数のグループに登録することはできません。
- 手順5でグループ名を入力しないと、グループ名は「Group＊＊（グループ番号）」と表示されます。

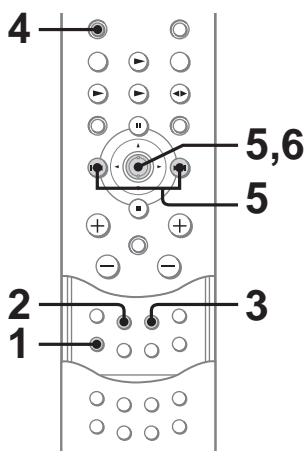
ちょっと一言
グループ機能のない機器で録音した曲でもグループ登録することができます。

グループ登録を解除する

（RELEASE）

登録を解除したいグループを指定するだけで、グループ登録を簡単に解除することができます。また、すべてのグループの登録を一度に解除することもできます。
グループ機能について詳しくは、「グループ機能について」（28ページ）をご覧ください。

1グループずつ解除する

指定したグループ登録を解除し、グループを消すことができます（曲そのものは消せません）。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる

3 グループスキップボタンをくり返し押して、登録を解除したいグループを選ぶ

4 MENU/NOを押す

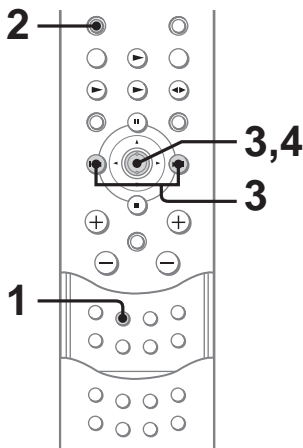
5 ⏮または⏭をくり返し押して、「Gp Release?」を表示させ、決定ボタンを押す

「REL Gp＊＊（グループ番号）??」が表示されます。

6 決定ボタンを押す

途中でやめる
MENU/NOを押す。

すべてのグループを一度に解除する

MD内のすべてのグループ登録を一度に解除し、グループを消すことができます（曲そのものは消せません）。

1 停止中にMDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して、「Gp All REL?」を表示させ、決定ボタンを押す

「All REL??」が表示されます。

4 決定ボタンを押す

途中でやめる

MENU/NOを押す。

曲を消す

(ERASE)

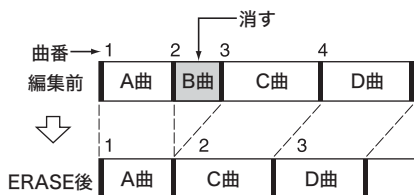
「Erase」は「消す」という意味です。
消したい曲番を選ぶだけで、録音した曲を簡単に消せます。消したすぐ後ならUNDO機能（42ページ）を使って元に戻せますが、他の編集などをしてからでは元に戻せないので、よく確認してから消してください。
消すには、次の3種類の方法があります。

- 1曲を消す（Track Erase）
- 全曲を消す（All Erase）
- 曲の一部分を消す（A-B Erase）

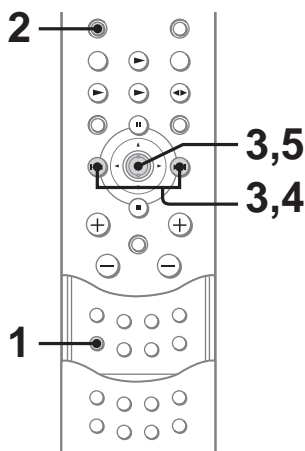
ただし、SonicStage（53ページ）を使ってMDにチェックアウト（転送）した曲は保護されているため、本機では消すことができません。SonicStageを使ってチェックイン（転送元のパソコンに「戻す」こと）すると、曲を消すことができます。

1曲を消す（Track Erase）

1曲消すと、曲番は順にくり上がります。例えば、曲番2を消すと、元の曲番3が2にくり上がります。

例）2曲目を消す

このように曲番がくり上がっていきますので、2曲以上消すときは、途中の曲番が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。

MD — 編集

次のページへつづく

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「Tr Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

表示されている曲の再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して、消したい曲の曲番を表示させる

5 決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示されて、手順4で選んだ曲が消え、次の曲の再生が始まります（最後の曲を消したときは、消した前の曲の再生が始まります）。

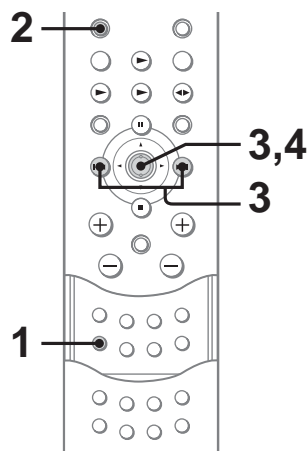
途中でやめる

MENU/NOを押す。

ご注意

グループ内の全曲を消すと、グループ内のすべての曲と同時に、グループも消えます。

全曲を消す（All Erase）

一度に、MDの全曲と全曲名、ディスク名、グループ名（MDに記録しているすべての内容）を消せます。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「All Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

「All Erase??」が表示されます。

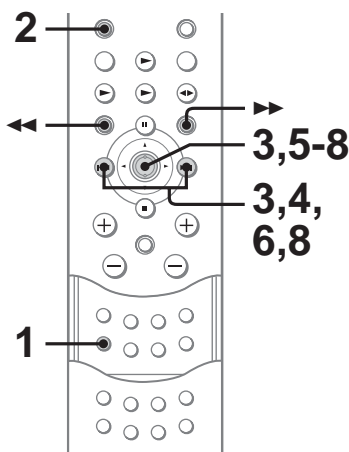
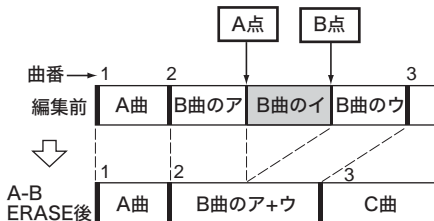
4 決定ボタンを押す

途中でやめる
MENU/NOを押す。

ご注意
グループ機能が働いているときに上の操作を行うと、グループ内の曲だけでなくMDのすべての曲が消えますのでご注意ください。

曲の一部分を消す（A-B Erase）

1曲中の消したい範囲を指定して、簡単にその部分を消すことができます。フレーム*、秒、分単位で消す位置をずらすことができます。衛星放送やFM放送などを録音したMDの不要な部分を消すのに便利です。
* 1フレームは1/86秒です。

例）B曲の一部を消す

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「A-B Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して、一部を消したい曲番を選ぶ

5 音を聞きながら、消したい部分の始点（A点）で決定ボタンを押す

「—Rehearsal—」と「Point A ok?」が交互に表示され、A点までの数秒間をくり返し再生します。

6 A点を正しく再生していたら、決定ボタンを押す

「Point B set」が表示され、B点を設定するための再生が始まります。

A点を正しく再生していないときは
くり返し再生される音を聞きながら、⏮または⏭を押して、消したい部分の始点（A点）を調節し、決定ボタンを押す。
1/86秒（1f）*ずつ位置がずらせます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2fずつ、LP4ステレオ録音した曲は4fずつ位置がずらせます。

MD — 編集

次のページへつづく

7 再生を続けて、消したい部分の終点（B点）まできたら決定ボタンを押す

「A-B Ers」と「Point B ok?」が交互に表示され、A-B間を消したつなぎ目の部分（A点までの数秒間とB点からの数秒間）をくり返し再生します。

8 B点を正しく再生していたら、決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示されて、A点からB点の間が消え、曲の先頭から再生が始まります。

B点を正しく再生していないときは

くり返し再生される音を聞きながら、⏮または⏭を押して、消したい部分の終点（B点）を調節し、決定ボタンを押す。

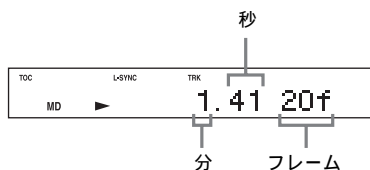
1/86秒（1f）*ずつ位置がずらせます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2fずつ、LP4ステレオ録音した曲は4fずつ位置がずらせます。

途中でやめる

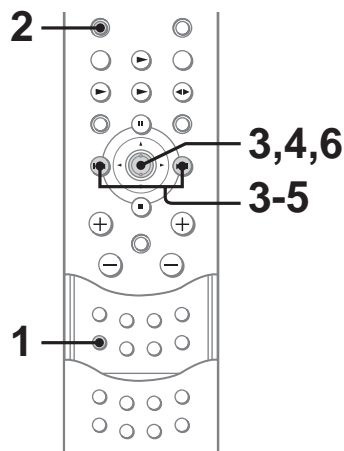
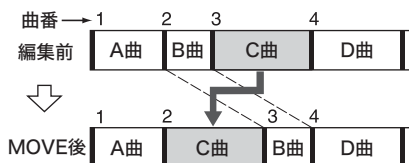
MENU/NOを押す。

ちょっと一言

手順6または手順8で、秒、分単位で調節するには、◀◀または▶▶をくり返し押して、分、秒、フレームのいずれかの位置を点滅させて、⏮または⏭を押します。

曲順を変える

(MOVE)

「Move」は、「動かす」という意味です。曲を好きな位置に移動させて、曲順を変えられます。曲順を変えると、曲番も頭から順に付け直されます。

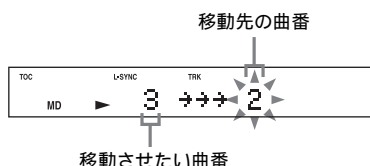
例）3曲目を2曲目に移動する

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「Move?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して移動したい曲番を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して移動先の曲番を表示させる

6 決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示され、移動した曲が再生されます。

途中でやめる

MENU/NOを押す。

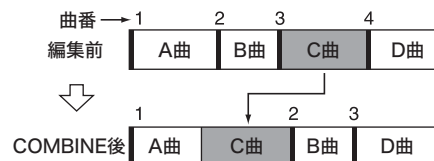
ご注意

移動先の曲番がグループに属する場合、移動先のグループに登録され直します。また、グループ登録された曲の移動先の曲番がグループ登録されていなかった場合、移動した曲のグループ登録は解除されます。ただし、グループ機能が働いているときは、グループ内でしか曲の移動はできません。

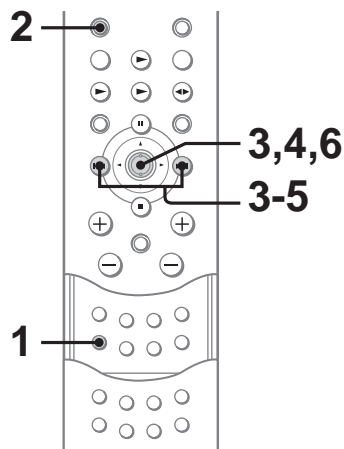
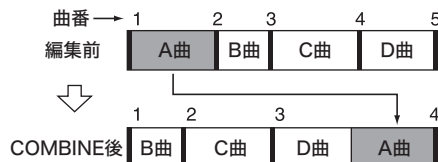
曲をつなぐ

（COMBINE）

「Combine」は、「つなぐ」という意味です。2曲をつないで1曲にします。曲番は、頭から順に付け直されます。

例）1曲目に3曲目をつなぐ

例）4曲目に1曲目をつなぐ

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

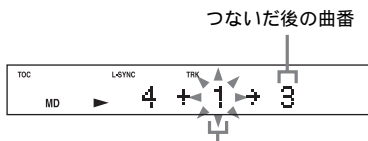
次のページへつづく

2 MENU/NOを押す

3 ⏮またはを⏭をくり返し押して「Combine?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して先につなぎたい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す

例）曲番4に1をつなぐときは、4を選びます。

5 ⏮または⏭をくり返し押して後につなぎたい曲の曲番を表示させる

6 決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示されて、つながった曲の再生が始まります。

途中でやめる

MENU/NOを押す。

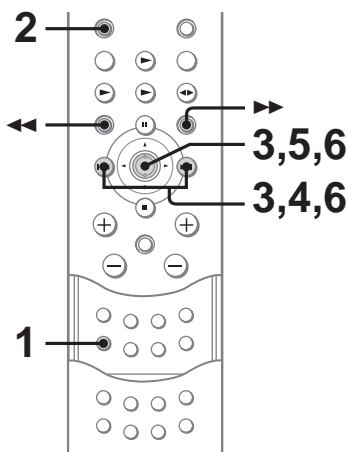
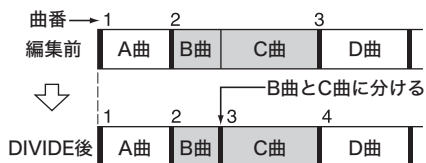
ご注意

- 別々のグループに登録された2つの曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲が属するグループに登録され直します。また、グループ登録された曲とされていない曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲の属性と同じになります。ただし、グループ機能が働いているときは、グループ内でしか曲をつなぐことはできません。
- 録音モード（ステレオ、LP2ステレオ、LP4ステレオ、モノラル）が同じ曲としかつなぐことができません。
- つないだ2曲の両方に曲名が付いているときは、後ろの曲名が消えます。

曲を分ける

（DIVIDE）

「Divide」は「分ける」という意味です。
録音した後で曲番を付けるときに使います。また、テープやラジオから録音し、曲番が自動的に付かず、頭出しをしたいときにも使います。分けた曲以降の曲番は、頭から順に付け直されます。

例）2曲目を2つに分ける

1　FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2　MENU/NOを押す

3　⏮または⏭をくり返し押して「Divide?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4　⏮または⏭をくり返し押して分けたい曲番を表示させる

5　音を聞きながら、分けたい位置で決定ボタンを押す

「―Rehearsal―」が表示され、分ける部分がくり返し再生されます。

6　分けるところを正しく再生していたら、決定ボタンを押す

「Complete!」と数秒間表示されて、分かれて新しくできた曲の再生が始まります。

分けるところを正しく再生していないときは

くり返し再生される音を聞きながら、⏮または⏭を押して、曲を分ける位置を調節し、決定ボタンを押す。
1/86秒（1f）*ずつ位置がずらせます。

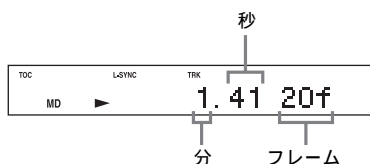
* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2fずつ、LP4ステレオ録音した曲は4fずつ位置がずらせます。

途中でやめる

MENU/NOを押す。

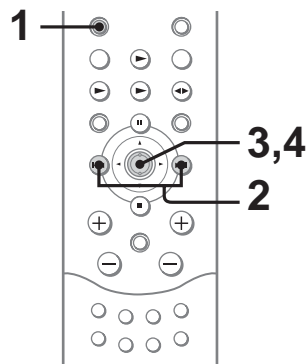
次のページへつづく

ご注意
曲名を付けた（30ページ）曲をDivideして2つの曲に分けると、前の方の曲にのみ、その曲名が付きます。
例）

ちょっと一言
手順6で、秒、分単位で調節するには、◀◀または▶▶をくり返し押して、分、秒、フレームのいずれかの位置を点滅させて、I◀◀ または▶▶Iを押します。

ひとつ前の編集操作を取り消す

（UNDO）

最後に行った編集操作を取り消し、その前のMDの内容に戻します。
ただし、編集後に次のいずれかの操作をすると取り消せません。

- 他の編集作業をする。
- 録音の操作をする。
- Net MD機能をオンにする。
- 電源を切ったり、MDを取り出したりして、編集した内容を記録する。
- 電源プラグをコンセントから抜く。

1 停止中にMENU/NOを押す

2 I◀◀ または▶▶Iをくり返し押して「Undo?」を表示させる

取り消せる編集操作がないときは、「Undo?」は表示されません。

3 決定ボタンを押す

最後に行った編集操作に応じて、次のメッセージが表示されます。

編集操作	メッセージ
名前を付ける	「Name Undo?」
付けた名前を消す	
新しいグループを作る	「Group Undo?」
1グループずつ解除する	
全曲を1度に解除する	
曲の一部分を消す	「Erase Undo?」
1曲を消す	
全曲を消す	
曲順を変える	「Move Undo?」
1つの曲を2つに分ける	「Divide Undo?」
2つの曲を1つにする	「Combine Undo?」

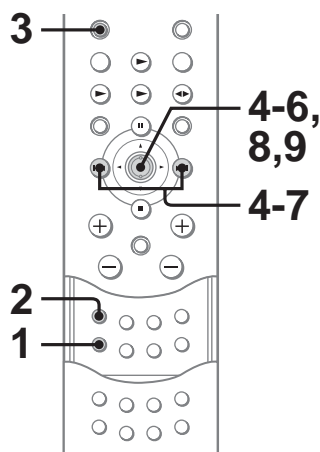
4 決定ボタンを押す

途中でやめる

MENU/NOを押す。

録音後に録音レベルを変更する

(S.F EDIT)

録音済みの曲の音声レベルを変更することができます。もとの曲は新しい録音レベルで上書きされます。また、フェードイン・フェードアウトを使うと、曲の頭が次第に大きく再生される曲や、曲の最後が次第に小さく再生される曲を作ることができます。

1曲全体の録音レベルを変更する

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 再生モードボタンをくり返し押して、「SHUF」や「PGM」を消す

3 MENU/NOを押す

次のページへつづく

4 |◀◀または▶▶|をくり返し押して「S.F Edit?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 |◀◀または▶▶|をくり返し押して「Tr Level?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

6 |◀◀または▶▶|をくり返し押して録音レベルを変更したい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す

「Level 0dB」が表示されます。

7 再生される音を聞きながら、|◀◀または▶▶|をくり返し押して、録音レベルを変更する

－12dBから＋12dBの範囲内（2dB単位）で変更できます。一番大きい音のとき、表示窓に「OVER」が点灯しないようにします。

「OVER」が点灯しないように調節する

8 決定ボタンを押す

「S.F Edit OK?」が表示されます。

9 決定ボタンを押す

曲の書き換えが始まります。
書き換え中は、「S.F Edit：＊＊%」が表示されます。
曲の書き換えには、その曲の再生時間とほぼ同じかそれ以上の時間がかかります。書き換えが終わると、「Complete!」が表示されます。

フェードイン・フェードアウトする曲を作る

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 再生モードボタンをくり返し押して、「SHUF」や「PGM」を消す

3 MENU/NOを押す

4 |◀◀または▶▶|をくり返し押して「S.F Edit?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 |◀◀または▶▶|をくり返し押して「Fade In?」または「Fade Out?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

6 |◀◀または▶▶|をくり返し押してフェードインまたはフェードアウトさせたい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す

「Time5.0s」が表示されます。

7 再生される音を聞きながら、I◀◀ または▶▶Iをくり返し押して、フェードインまたはフェードアウトする時間を調節する

フェードインまたはフェードアウトされる部分がくり返し再生されます。
1秒から15秒の間（0.1秒単位）で調節できます。その曲の再生時間を超えた設定はできません。

8 決定ボタンを押す

「S.F Edit OK?」が表示されます。

9 決定ボタンを押す

曲の書き換えが始まります。
書き換え中は、「SF Edit：＊＊%」が表示されます。書き換えが終わると、「Complete!」が表示されます。

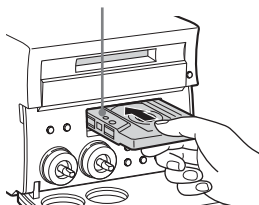
途中でやめる

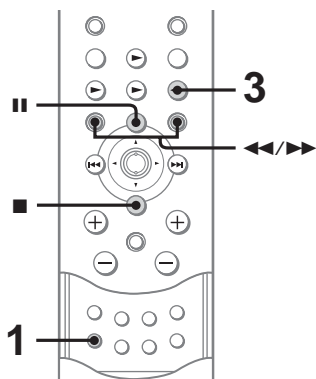
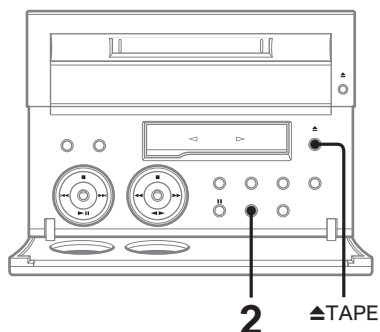
手順4～8の途中でMENU/NOを押す。手順9で決定ボタンを押して書き換えが始まると、操作を途中でやめることはできません。

ご注意

- MDLP録音した曲の録音レベルを変更することはできません。
- 録音レベルを何度も変更すると音質が劣化します。
- 録音レベルを変更した曲を再び元のレベルに戻しても、完全に元の録音レベルには戻りません。
- タイマーが働いているときは、録音レベルを変更できません。
- 録音レベルを変更した曲は、UNDO機能を使って元の状態に戻すことはできません。

テープを入れる

テープを入れる

テープを聞く

本機はTYPE I（ノーマル）のテープにのみ対応しています。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをTAPEに切り換える

2 DIRECTIONをくり返し押して、片面再生（⟷）か両面再生（⇄または⇄*）を選ぶ

* 5回くり返して自動的に止まります。

3 TAPE◀▶を押す

▶が表示され、おもて面から再生が始まります。うら面を聞くには、TAPE◀▶をもう一度押します。◀が表示され、反対面の再生が始まります。

ちょっと一言

- CMT-SE3のタイマー機能を使うと、目覚ましとして使用できます。詳しくは、CMT-SE3に付属の取扱説明書「目覚ましとして使う」をご覧ください。
- CMT-SE3でスリープタイマーを「AUTO」に設定しているときは、ディスクまたはテープの再生が終了すると自動的に電源が切れます。
- 他の音源を聞いていても、テープが中に入っているときにTAPE ◀▶を押すと、ファンクションがテープに切り換わって再生が始まります（オートファンクション）。

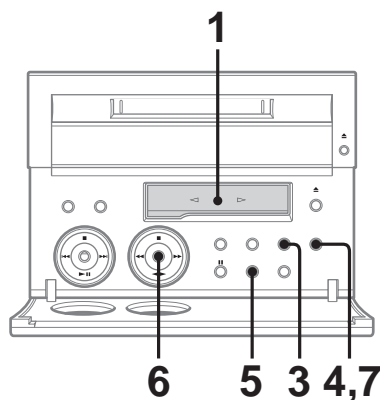
その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■を押す。
一時停止する	❚❚を押す。もう一度押すと再生を再開します。
早送りまたは巻き戻しする	◀◀または▶▶を押す。
テープを取り出す	本体の⏏TAPEを押す。

テープ ― 録音

ディスクを録音する

（シンクロ録音）

1枚のディスクをそのままテープにアナログ録音できます。

1 録音用のテープを入れる

2 本機にMDを入れるか、またはCMT-SE3にCDを入れる

3 MODEをくり返し押して、「CD→TAPE SYNC」または「MD→TAPE SYNC」を表示させる

4 ENTER/STARTを押す

「Press START」が点滅します。
テープが録音一時停止に、ディスクは再生一時停止になります。

次のページへつづく

5 DIRECTIONをくり返し押して、片面録音（⇄）か両面録音（⇄または⇄）を選ぶ

6 TAPEスティックで◄►をくり返し選び、録音を始める面を選ぶ

両面またはおもて面を録音するときは►を表示させます。うら面のみを録音するときは◄を表示させます。

7 「Press START」が点滅しているのを確認してからENTER/STARTを押す

録音が始まります。
録音が終わると、ディスク、テープとも自動的に停止します。

録音を止める

TAPEスティックで■を選ぶ。

CDやMDの好きな曲だけを録音するには

プログラム再生機能を使って、好きな曲を選んでから録音することもできます。手順2と3のあいだで、「好きな曲順で聞く」（11ページ）またはCMT-SE3に付属の取扱説明書「好きな順に再生する」の手順1〜5の操作を行います。

ご注意

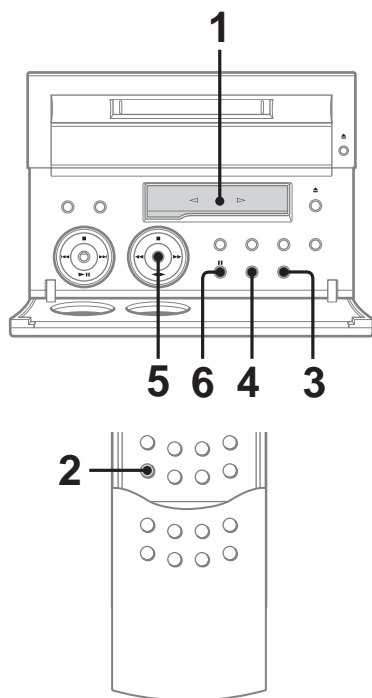
ディスクの再生モードがリピートやシャッフルになっているときは、手順4で自動的にノーマル再生に切り換わります。

ちょっと一言

⇄または⇄を選んで録音すると、曲の途中でおもて面が終わっても、うら面にその曲の頭から録音し直します。

好きなところから録音する

（マニュアル録音）

ディスクやMD、ラジオ、接続した機器からお好みに応じて録音ができます。例えば、CDやMDの好きな部分だけを録音することができます。

1 録音用のテープを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

- DVD：CMT-SE3のディスクの音を録音する
- MD：本機のMDの音を録音する
- TUNER：CMT-SE3のラジオの音を録音する
- VIDEO（SAT）：CMT-SE3につないだ別売り機器の音をアナログ録音する

3 RECを押す

テープが録音一時停止になります。

4 DIRECTIONをくり返し押して、片面録音（⇄）か両面録音（⇄または⇄）を選ぶ

5 TAPEスティックで◀▶をくり返し選び、録音を始める面を選ぶ

両面またはおもて面を録音するときは▶を表示させます。うら面のみを録音するときは◀を表示させます。

6 ❚❚を押してから録音したい音源の再生を始める

録音が始まります。

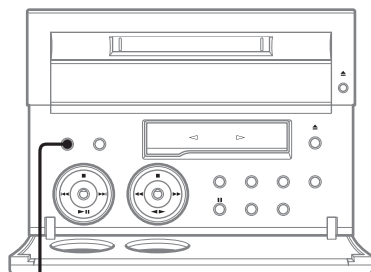
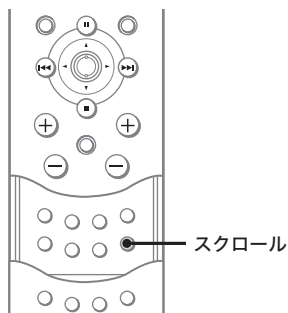
ちょっと一言

CMT-SE3のタイマー機能を使って、CMT-SE3のラジオから本機のテープへタイマー録音ができます。詳しくは、CMT-SE3に付属の取扱説明書「タイマーを使って録音する」をご覧ください。

その他の操作

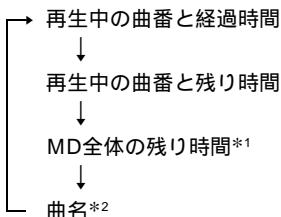
こんなときは	操作
録音を止める	TAPEスティックでTAPE■を選ぶ。
録音を一時停止する	❚❚を押す。

表示窓を使って残り時間や名前を見る

再生中のトラック（曲）やMD全体の経過時間と残り時間を見ることができます。

MDの残り時間や名前を見る

再生中にDISPLAYを押す

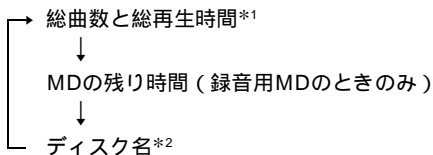
押すたびに次のように変わります。

再生中

*1 グループ機能が働いているときは、グループ内の全曲の残り時間が表示されます。
*2 曲名が付いていないときは、表示されません。

MDの総再生時間を見る

停止中にDISPLAYを押す

押すたびに次のように変わります。

停止中

*1 グループ機能が働いているときは、総グループ数（グループ未選択時）またはグループ内の総曲数および総再生時間（グループ選択時）が表示されます。MDの合計再生時間が1,000分を超えたときは、「－－－.－－」と表示されます。
*2 ディスク名が付いていないときは、表示されません。グループ機能が働いているときは、グループ名が表示されます。

長い名前をスクロール表示する

スクロールボタンを押す。
表示窓に名前が横に流れます（スクロール）。

ちょっと一言

- 再生中にいつでも曲名を見ることができます。スクロールボタンを押すと曲名全体が表示窓にスクロールして表示されます。
- MDにディスク名や曲名、グループ名を付けたいときは「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（30ページ）をご覧ください。

付属のソフトウェアについて

USBケーブル（付属）をつなぐ前に付属のCD-ROMを使ってパソコンにソフトウェアをインストールしてください。インストールについてはCD-ROMケースの記載をご覧ください。
USBケーブルのつなぎ方については、「準備2：本機とパソコンをつなぐ」（7ページ）をご覧ください。
本機をパソコンとつなぐと、パソコンのハードディスクやCD-ROMドライブで再生した曲を、CMT-SE3につないだスピーカーで聞くことができます。また、付属のCD-ROMからインストールしたソフトウェアM-crewを使ってパソコンで本機とCMT-SE3を操作したり、「Net MD対応SonicStage」を使ってパソコンに保存した音楽データをMDに転送することができます。

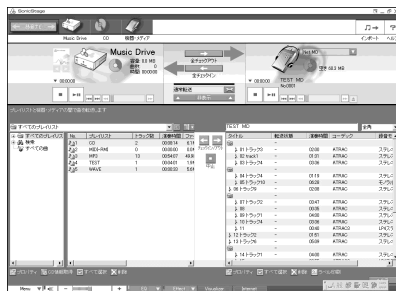
M-crewについて

パソコンと本機をUSBケーブルで接続し、パソコンから本機を操作するためのソフトウェアです。DVDなどのディスク/MD/チューナーの再生、録音、編集などができます。

インストール方法は、CD-ROMケースの記載をご覧ください。簡単な使いかたについては、付属のCD-ROM内にあるPDFファイル「M-crew取扱説明書」をご覧ください。詳しい使いかたについては、オンラインヘルプをご覧ください。

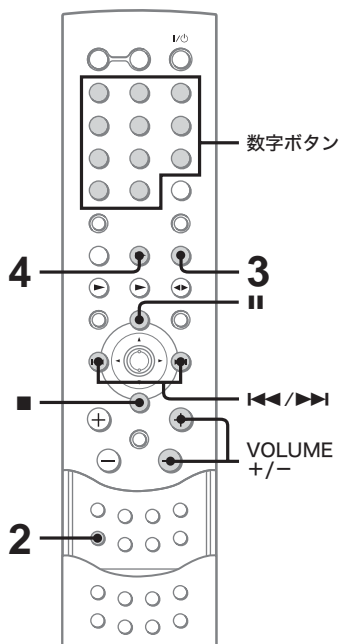
ご注意
M-crewのインストールは、必ず本機とつなぐ前に行ってください。また、改めてインストールするときも、USBケーブルを外してから行ってください。

Net MD対応SonicStageについて

「OpenMG」（ソニーの開発した著作権保護技術）を採用し、デジタル音楽コンテンツをコンピューターのハードディスクに保存してコンピューター上で楽しめるソフトウェアです。ハードディスクに保存した音楽はMDにチェックアウト（転送）して、持ち出して聞くことができます。

インストール方法は、CD-ROMケースの記載をご覧ください。簡単な使いかたについては、付属のCD-ROM内にあるPDFファイル「Net MD対応SonicStage取扱説明書」をご覧ください。詳しい使いかたについては、オンラインヘルプをご覧ください。

ご注意
Net MD対応SonicStageのインストールは、必ず本機とつなぐ前に行ってください。また、改めてインストールするときも、USBケーブルを外してから行ってください。

つないだパソコンの音を聞く

付属のM-crewを起動することにより、M-crewに登録されたパソコン内の音楽データの再生や、インターネットラジオの選局などを本機で操作できます（PC LIBRARY CONTROL）。パソコン内の音楽データのM-crewへの登録は、パソコン側で操作します。また、M-crewに登録されていないパソコン内の音楽データやCD-ROMドライブの曲の再生は、本機では操作できません。パソコン側で操作してください。ただし、M-crewでは、パソコンのCD-ROMは操作できません。操作の前に本機とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。

1 付属のCD-ROMからインストールしたM-crewを起動する

M-crewの起動、設定などのしかたは、付属のCD-ROM内にあるPDFファイル「M-crew取扱説明書」をご覧ください。

2 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをPCに切り換える

3 PC LIBをくり返し押して、以下のモードを選ぶ

- PC：パソコンで操作します。Windows Media Playerなど、一般の音楽再生ソフトウェアで音楽を聞くことができます。表示窓に「USB Audio」と表示されます。
- MUSIC LIBRARY：本機で操作します。M-crewに登録している音楽データ（プレイリスト）を聞くことができます。本体のDISPLAYを押してName表示に切り換えると、再生中の曲名が、表示窓に表示されます。
- WEB RADIO：本機で操作します。M-crewに登録しているインターネットラジオを聞くことができます。本体のDISPLAYを押してName表示に切り換えると、放送中のインターネットラジオの局名が、表示窓に表示されます。

ご注意

M-crew起動時にのみ、モード選択は有効です。M-crewが起動されていない場合はモードに関係なく、一般の音楽再生ソフトウェアを起動してパソコン操作で音楽を聞くことができます。

4 PC►を押す

MUSIC LIBRARYまたはWEB RADIOの再生が始まります。

ご注意

- WEB RADIOモードでは、あらかじめInternet Explorerの接続設定および、インターネットに接続している必要があります。本機およびM-crewには、ダイヤルアップなどのインターネットを接続/切断する機能はありません。インターネットの接続/切断はパソコン側で操作してください。
  接続時間によって課金される接続契約を結ばれている場合は、WEB RADIO使用後のインターネット切断を忘れないように充分ご注意ください。
- 「Check USB」が表示されたときは、USBケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。
- M-crewが起動していないときは、「PC Soft Off」が表示されます。

ちょっと一言

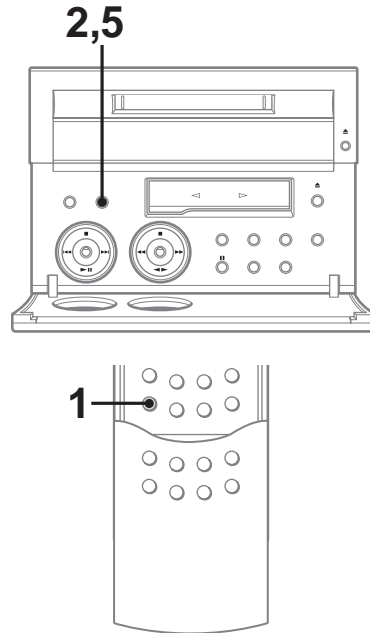
手順2でPC►を押すと、自動的にファンクションがPCに切り換わって演奏が始まります（オートファンクション）。

MUSIC LIBRARYとWEB RADIOモード時の操作

こんなときは	操作
演奏を止める	■を押す。
一時停止する	演奏中に❚❚を押す（インターネットラジオ局の送信形態によっては機能しない場合があります）。
曲またはインターネットラジオ局を選ぶ	⏮または⏭を押す。
音量を調節する	VOLUME ＋または－を押す。
表示を切り換える	本体のDISPLAYを押す。

ちょっと一言

⏮または⏭の代わりに、プレイリスト曲番、またはラジオ局の番号を数字ボタンで選ぶこともできます。10以降の番号を選ぶには、＞10ボタンを押してから数字ボタンを押します。0を選ぶには、10/0ボタンを押します。

Net MD対応SonicStageを使う

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 NET MDボタンを押す

Net MD機能がオンになります。
「Net MD」が表示されます。

3 パソコンでNet MD対応SonicStageを起動して操作する

次のページへつづく

4 （操作が終了したら）Net MD対応SonicStageを終了する

5 NET MDボタンを押して、Net MD機能をオフにする

ご注意

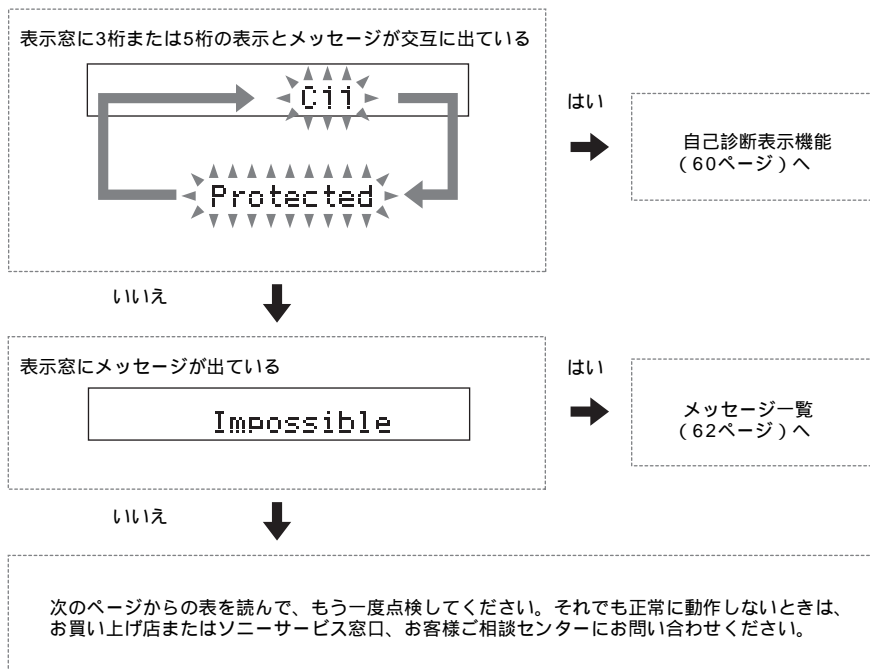
- NET MDを押してNet MD機能をオンにしているときは、ファンクションの切り換えはできません。また、⏏MD（取り出し）以外の本体のMDの操作もできません。
- タイマーが働いているときは、Net MD機能は使えません。
- 「Check USB」が表示されたときは、USBケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。
- Net MD対応SonicStageでチェックイン/アウトしているときは、「CONNECT」が表示されます。表示が出ているときに、USBケーブルを抜かないでください。チェックイン/アウトについては、Net MD対応SonicStageのオンラインヘルプをご覧ください。
- Net MD機能をオンにすると、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生およびグループ機能は解除されます。
- MDLP非対応機器で再生する場合、SonicStageのチェックアウト時に転送モードを「ステレオ転送」にしてください。LP2/LP4で転送した場合、MDLP非対応機器では再生できません。

症状と原因

修理に出す前に、以下の手順にしたがって点検してください。

次のページからの表を読んで、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

次のページへつづく

共通

症状	原因と対応のしかた
本機で操作できない	CMT-SE3と正しく接続されていない。 ➔ 正しく接続し直す（5ページ）。
音が出ない	電源コードが抜けている。 ➔ 電源コードをつなぎ、I/⏻（電源）を押して電源を入れる。
	オーディオ/デジタル接続コードが正しく接続されていない。 ➔ オーディオ/デジタル接続コードを正しく接続し直す（5ページ）。プラグは根元までしっかり差し込んでください。
	ボリュームが小さい。 ➔ VOLUME ＋を押す。
雑音が多い	テレビやビデオなど、ノイズを出す機器の近くに設置している。 ➔ 離れたところに設置する。
	冷蔵庫など、ノイズを出す機器と同じ電源コンセントにつないでいる。 ➔ 別の電源コンセントにつなぐ。 ➔ 電源ラインのノイズフィルター（市販）を使用する。
リモコンで操作できない	CMT-SE3と正しく接続されていない。 ➔ 正しく接続し直す（5ページ）。
	リモコンとCMT-SE3の間に障害物がある。 ➔ 障害物を取り除く。
	リモコンとCMT-SE3の距離が離れすぎている。 ➔ 近寄って操作する。
	リモコンの発光部がCMT-SE3の方を向いていない。 ➔ リモコンをCMT-SE3に向ける。
	リモコンの乾電池が消耗している。 ➔ 乾電池（単3）を交換する。
	CMT-SE3の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。 ➔ CMT-SE3と蛍光灯を離して設置する。
ボタンが働かない	Net MD機能がオンになっている。 ➔ Net MDを使わないときは、本体のNET MDボタンを押してオフにする。

MD

症状	原因と対応のしかた
ディスクが入らない	ディスクの向きが違う。 → 矢印の書いてある面を上にして、矢印の向きに挿入する。
操作を受け付けない	MDが汚れている、または破損している。 → 新しいMDと交換する。
	「TOC」が点滅し、TOCを書き込み中である。 →「TOC」が消灯してから操作し直す。
	M-crewが起動中か、画面右下のタスクトレイに入っている。 → M-crewを終了させてから操作する。
再生が始まらない	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）、傷がひどい。 → ディスクを交換する。
	ディスクに何も記録されていない。 → 録音されているディスクと交換する。
	本機内部のレンズ、または入れたディスクが結露している。 → ディスクを本機に入れ、本機の電源を入れたまま数時間待つ。
	MDが再生状態になっていない。 → MD►を押し、再生状態にする。
	グループ登録された曲がないときに、グループ機能を働かせている。 → MDグループボタンを押して、「GROUP ON」表示を消し、グループ機能を解除する。
音とびがする	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）、傷がひどい。 → ディスクを交換する。
	本機に振動が加わっている。 → 振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。 → スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。
	本機内部とディスクの温度差がはげしい。 → ディスクを本機に入れ、電源を入れたまま10～20分待つ。
再生が1曲目から始まらない	プログラム再生、またはシャッフル再生になっている。 → 再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「PGM」または「SHUF」を消し、ノーマル再生に戻す。
「OVER」が表示される	一時停止中に►►を押し続け、ディスクの最後まで達した。 → ◄◄を押し続ける、または|◄◄を押して再生位置を戻す。
録音中に「OVER」が点灯する	録音される音の大きさが大きく設定されている。 → 録音レベルを設定し直す（25ページ）。
MDに録音したり編集を行ったのに、その情報が記録されていない	MDの録音や編集後、MDを取り出さないで電源コードを抜いた。 → MDの録音や編集情報は、MDを取り出すときに記録されるため、録音や編集後は必ずMDを取り出してください（15、28ページ）。

次のページへつづく

症状	原因と対応のしかた
曲が消えない	SonicStageを使ってMDにチェックアウト（転送）した曲を本機で消そうとしている。 ➔ SonicStageでチェックインして曲を消す（53ページ）。
録音できない	MDが誤消去防止状態になっている（「C11」と「Protected」が交互に表示されている）。 ➔ ディスクを取り出し、録音可能状態にする（15ページ）。
	CMT-SE3と正しく接続されていない。 ➔ 正しく接続し直す（5ページ）。
	ファンクションが「MD」になっている。 ➔ FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源に切り換える。
	市販の再生専用のMDが入っている。 ➔ 録音用MDと交換する。
	MDの残り時間が足りない。 ➔ MD編集のERASE機能を使っていらない曲を消す（35ページ）か、別のMDと交換する。
	録音中に停電があった、または電源コードが抜かれた。 ➔ 初めから録音し直す。
シンクロ録音ができない	システムケーブルが正しく接続されていない。 ➔ システムケーブルを正しく接続し直す（6ページ）。
	DVDをシンクロ録音しようとしている。 ➔ DVDではシンクロ録音ができません。
録音したMDを再生すると音が小さい（または音が大きい）	録音された音の大きさが小さく（または大きく）設定されている。 ➔ 録音レベルを調節し直す（25ページ）。
LP4ステレオで録音すると音がもれる	片方のチャンネルだけに音楽や音声が録音されているCD、テープ、または別売り機器の音をLP4ステレオ録音したときは、音が録音されていないチャンネルにも音がもれることがある。 ➔ ステレオ録音またはLP2ステレオ録音する。
録音したMDに曲番が付かない	雑音が多い音を録音している。 ➔ レベルシンクロの検出レベルを変更する（22ページ）。

テープ

症状	原因と対応のしかた
再生音や録音した音が小さい	ヘッドが汚れている。 ➔ ヘッドのお手入れをする（67ページ）。
	ヘッドが磁化している。 ➔ ヘッドを消磁する（67ページ）。
前の録音が完全に消えない	ヘッドが磁化している。 ➔ ヘッドを消磁する（67ページ）。
音がとぎれる	内部のピンチローラーなどが汚れている。 ➔ 市販のクリーニングカセットを使って、お手入れする。

症状	原因と対応のしかた
雑音が多い	ヘッドが磁化している。 ➔ ヘッドを消磁する（67ページ）。
録音できない	テープが入っていない。 ➔ テープを入れる。
	テープのツメが折れている。 ➔ ツメの部分だけ穴をふさぐ（67ページ）。
	テープが最後まで巻きとられている。 ➔ テープを巻き戻す。

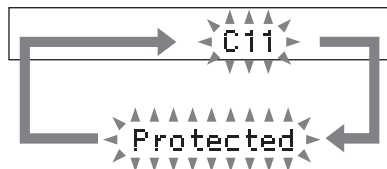
パソコン接続

症状	原因と対応のしかた
ドライバが見つからないというメッセージが出る	パソコンにUSBドライバがインストールされていない。 ➔ ドライバをインストールし直す。
M-crewまたはSonicStageが起動しない	パソコンに搭載されているUSBホストコントローラーによっては、正常に動作しない場合があります。 2003年10月現在、該当するものは、SiS7001 PCI to USB Open Host Controllerです。

上記のどの処置でも正常に動作しない場合は、CMT-SE3に付属の取扱説明書「症状と原因」の「これらの処置をしても正常に動作しないときは ― リセット」の操作を行ってください。本機と、CMT-SE3のDVD以外の設定がリセットされてお買い上げ時の状態に戻ります。

自己診断表示機能

（3桁または5桁の表示とメッセージが交互に出たら）

本機には自己診断表示機能がついています。これは、本機が正しく動作していないとき、表示窓に3桁または5桁の表示とメッセージを交互に表示してお知らせする機能です。
表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下の表をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

表示番号/メッセージ	原因と対応のしかた
C11/Protected	ディスクが誤消去防止状態になっている。 → ディスクを取り出し、録音可能状態にする（15ページ）。
C12/Cannot Copy	本機で録音できないフォーマットで記録した音声を録音しようとしている。 → 本機で録音できるフォーマットで記録した音声を録音する。
	CMT-SE3につないだ別売り機器から、AACなど本機でデジタル録音できない音声を録音しようとしている。 → 別売り機器のデジタル音声出力をPCMに切り換える。
C13/REC Error	正しく録音できなかった。 → 振動のない場所に本機を設置し、録音をやり直す（「故障かな?と思ったら」のMDの項目にある「音とびがする」（57ページ）をご覧ください）。
	ディスクにひどい汚れ（油膜、指のあとなど）や傷がある、またはディスクが規格外である。 → ディスクを交換して、録音をやり直す。
C13/Read Error	ディスク情報を正しく読み取れなかった。 → ディスクを入れ直す。
C14/TOC Error	ディスク情報を正しく読み取れなかった。 → 他のディスクを入れてみる。 → ディスク上の内容をすべて削除してよいときは、MD編集のAll Erase機能を使って記録されている内容をすべて削除する（36ページ）。
C41/Cannot Copy	録音しようとした音源が市販の音楽ソフトのコピーになっている。またはCD-Rを録音しようとしている。 → シリアルコピーマネージメントシステムにより、コピーできない（68ページ）。また、CD-Rは録音できない。

表示番号/メッセージ	原因と対応のしかた
C71/Check OPT-IN	一瞬表示されて消えるときは、録音中のデジタル放送の信号によるものです。録音内容に影響はありません。
	CMT-SE3のVIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子につないだ機器やCDからのデジタル録音中に、光デジタル接続ケーブルが抜かれた、またはつながっているデジタル機器の電源が切られた。 → ケーブルをつなぐ、またはデジタル機器の電源を入れる。
	CMT-SE3と光デジタル接続ケーブルが正しく接続されていない、またはCMT-SE3のVIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子につないだ機器やCDからデジタル録音をするときに、録音一時停止状態からすぐに録音を開始した。 → 光デジタル接続ケーブルを正しく接続し直す、または録音一時停止状態で数秒待ってから録音を開始する。
E0001/MEMORY NG	本機を動作させるために必要な内部情報に問題が生じた。 → お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
E0101/LASER NG	光ピックアップに問題が生じた。 → 故障の可能性があります。お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
E0201/LOADING NG	ローディングに問題が生じた。 → お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ一覧

使用中、状況によって英語のメッセージを表示します。意味は以下の通りです。

MD

メッセージ	原因と対応のしかた
Analog REC	アナログ録音を開始した。
Assign None	すべての曲がグループ登録されている。
Auto Cut	録音中、無音状態が約30秒以上続いたため、オートカット機能が働き、無音部分（曲間）を約3秒に短縮した後、録音一時停止状態になった。 ➔ 録音を始めたいところでMD►を押し、録音を再開する。曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除して録音し直す（25ページ）。
Blank Disc	挿入されたMDには何も録音されていない、またはMD編集のERASE機能を使って録音内容がすべて削除されている。
Cannot Edit	市販の再生専用MDが入っている。 ➔ 再生専用MDは編集できない。
	プログラム再生、またはシャッフル再生になっている。 ➔ 再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「PGM」または「SHUF」を消し、ノーマル再生に戻す。
	MDLP録音されている。 ➔ MDLP録音した曲の録音レベルは変更できない。
Cannot REC	市販の再生専用MDが入っている。 ➔ 再生専用MDへは録音できない。
	ファンクションがMDになっている。 ➔ FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源に切り換える。
Cannot SYNC!	ディスクが入っていない、または誤消去防止状態になっているため、シンクロ録音できない。 ➔ 録音可能状態にし（15ページ）、ディスクを入れる。
	録音可能時間が残り少なく、シンクロ録音できない。 ➔ 新しいディスクと交換する。
Complete!	MD編集作業が、正常に終了した。
Disc Full!	録音可能時間が残り少なく、録音できない。 ➔ 新しいディスクと交換する。
Eject	ディスクを排出中。
Group Full!	グループ数の上限を超えて新たにグループを作成しようとした。または、グループ管理情報の更新に必要な文字数が不足している。 ➔ 不要な文字（ディスク名または曲名）を消す。

メッセージ	原因と対応のしかた
Impossible	MD編集操作で、不可能な編集内容が指定された。 → 編集操作をやり直す。
	つなごうとした（COMBINE）または一部分を消そうとした（A-B Erase）曲が、MDのシステム上の制約で、つなげないまたは消せない状態になっている。 → 指定のとおりに編集することはできません。 MDでは、ひとつの曲が連続で録音されるわけではありません。ディスク上の空いている場所を探しながら、効率よく録音されていきます。この録音方式により、MDは手軽に録音、編集がくり返せるのです。しかし、録音や編集を何度もくり返したMDでは、ひとつの曲がディスクのあちらこちらに、少しずつ記録されている状態ができてしまうことがあります。そのような状態で記録されてしまった曲は、MDのシステム上の制約により、他の曲とつなぐことまたは一部分を消すことができません。
Incomplete!	本機の振動やディスクの傷、汚れなどにより、録音後の録音レベルの変更やフェードイン・フェードアウトの操作が正しく行われなかった。 → 本機を振動のない場所に置く、または傷や汚れのないディスクを使用する。
Initialize	長い間電源を入れていなかったため、初期化を行っている。
Name Full!	入力可能な文字数（約1,700文字、カナ文字のみで800字）がすでに記録されている。 → 不要な曲名などを削除してから、入力し直す。
No Change	録音後に録音レベルを変更するときに、録音レベルを変更しないで決定ボタンを押したため、書き換えをせずに終了した。
No Disc	ディスクが挿入されていない。
OVER	一時停止中に▶▶を押し続け、ディスクの最後まで達した。 → ◀◀を押し続ける、または⏮を押して再生位置を戻す。
Push STOP!	MD再生（一時停止）中または録音（一時停止）中に使用できないボタンを押した。 → 再生を停止させてから、操作する。
Reading	ディスクの情報を読み取っている。 → 表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。
－Rehearsal－	MD編集A-B EraseまたはDIVIDEの操作中、曲を分ける場所の指定終了後、確認のために再生中。 → 再生される内容を聞き、分ける部分を確認する（37、41ページ）。
S.F Edit!	S.F EDIT（録音後の録音レベルの変更、フェードイン・フェードアウト）を実行中に他の操作をしようとした。 → S.F EDITの実行中は他の操作はできない。

次のページへつづく

メッセージ	原因と対応のしかた
S.F Edit NOW	S.F EDIT（録音後の録音レベルの変更、フェードイン・フェードアウト）の実行中にI/⏻（電源）を押した。 → S.F EDITの実行中に電源を切ると、書き換えが正常に終了しない。 書き換え終了後に電源を切る。それでも書き換え中に電源を切るときは、メッセージ表示中に再度I/⏻（電源）を押す。
Smart Space	録音中、約3秒以上、約30秒未満の無音状態が続いたため、スマートスペース機能が働き、無音部分が約3秒に短縮された。 → 曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除する（25ページ）。
Step Full!	26曲（ステップ）以上プログラムしようとした。 → 26曲以上はプログラムできない。不要な曲を消してから、プログラムし直す。
TOC Writing	録音、編集された情報を、ディスクに書き込んでいる。 → 表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が書き込めなくなります。
Track End	MD編集DIVIDEの操作中、曲を分ける位置の調節中に曲の最後まで達した。 → ⏮ または⏪を押して、位置を変える（41ページ）。
Tr Protected	Net MD機器でチェックアウトした曲などは、曲が保護されているため、一部のMD編集機能は使用できません。

テープ

メッセージ	原因と対応のしかた
Cannot SYNC!	テープが入っていない、または誤消去防止ツメが折れているため、シンクロ録音できない。 → A、B両面のツメの部分だけ穴をふさぎ（67ページ）、テープを入れる。
Eject	ディスクを排出中。
No Tab	誤消去防止ツメが折れているため、録音できない。 → A、B両面のツメの部分だけ穴をふさぐ（67ページ）。
No Tape	テープが入っていない。

パソコン接続

メッセージ	原因と対応のしかた
Buffer＞＞＊＊＊%	WEB RADIOでストリーミングデータをパソコンにバッファリングしている。
Busy NOW!	Net MD機能を使用中に、チェックイン/チェックアウトの途中で本体のNET MDボタンを押した。 ➔ 接続が終了してからNet MD機能を終了させる。
Cannot Pause	MUSIC LIBRARY、WEB RADIOで一時停止できない曲や放送を一時停止しようとした。
Cannot Play	MUSIC LIBRARYで再生できない曲を再生しようとした。
Check USB	USBケーブルが正しく接続されていない。 ➔ 接続を確認する。
CONNECT	チェックイン/チェックアウト中。
Connecting	WEB RADIOでインターネットラジオ局への接続を開始している。
Disconnect	WEB RADIOでインターネットラジオ局への接続が切断された。
Net MD	Net MD機能が働いている。
No Track	MUSIC LIBRARYに曲が登録されていない。 ➔ 曲を登録する。
No URL	WEB RADIOにURLが登録されていない。 ➔ URLを登録する。
Not Found	WEB RADIOでインターネットラジオ局への接続ができなかった。
PC Soft Off	M-crewが起動していない。 ➔ M-crewを起動させる。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。

（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

設置時のご注意

- オーディオ機器は、密閉した場所に置いて使用しないで、温度上昇を防ぐために風通しの良い所でお使いください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本体およびスピーカーなどを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。
- 本機の本体には、操作用のスティックが付いています。小さなお子様がいるご家庭では、お子様がつまずいて怪我をされないよう、設置場所には十分ご注意ください。

使用時の放熱について

- 使用中、本機の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 大音量で鳴らし続けると、本機キャビネットの天板や側板、底板、通風孔はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットなどに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
  また、動作中の温度上昇を避けるために空冷ファンを搭載している機器では、大きな音を出したときなどにファンが回転します。ファンの通風孔付近を塞いで使用すると、機器の温度が上昇して故障の原因になります。
- CMT-SE3で電源を切っているにもかかわらず、本機の天板があたたかくなることがありますが故障ではありません。電源コードがコンセントに差し込まれている限り、電源を切っているときでも本機の一部には電流が流れています。それらは、リモコンでの操作の待ち受けや、タイマー動作などのために使われています。

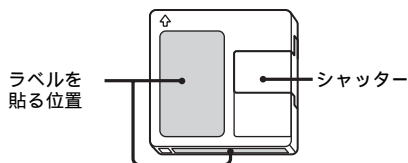
結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

移動時のご注意

- 必ずMDやテープを取り出してください。中に入れたまま動かすと、取り出せなくなることがあります。
- 移動する前に、電源が切れ、すべての動作が終了していることを必ず確認してください。

MDの取り扱いかた

- シャッターを無理に開けようとすると、壊れることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに直接触れずに、すぐに閉めてください。
- ディスクに付属のラベルはシャッターの周りなど所定以外の場所には貼らないでください。必ずラベル用のくぼみに貼ってください。くぼみの形はディスクによって異なります。

- 定期的にカートリッジ表面についたほこりやゴミを乾いた布で拭き取ってください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高音になるところには置かないでください。

お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布などで拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので、使わないでください。

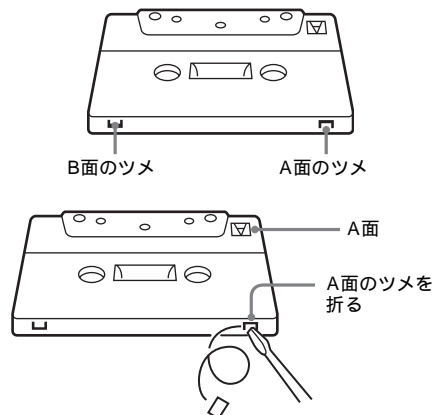
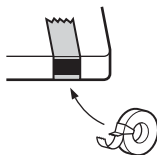
カセットテープを入れる前に

テープのたるみをとってください。たるんでいるとテープが巻き込まれて使えなくなることがあります。

長時間テープの使用は避けてください

90分を超える長時間テープは、テープ自体が薄く伸びやすい性質となっています。そのため機械に巻き込まれ、本機の故障の原因となる場合があります。ご使用をお避けください。

テープの録音内容を消したくないときは

消したくない面の誤消去防止ツメを折ります。

ツメを折っても、折ったツメの部分だけ穴をふさげば再び録音できます。

ヘッドのお手入れ

ヘッドはおよそ10時間使うごとにクリーニングしてください。
汚れがひどくなると、音が悪い、音が小さい、音がとぎれる、前の音が消えないで残る、録音ができない、などの症状が出ます。
また、特に大切な録音をする前や古いテープを使用した後には、かならずクリーニングしてください。
別売りのクリーニングカセット（乾式）C-1KN、または、クリーニングカセット（湿式）CHK-1をお使いください。詳しくはそれぞれのクリーニングカセットの取扱説明書をご覧ください。

ヘッドを消磁する

ヘッドやテープのあたる金属部分は、20～30時間使うごとに別売りのカセットタイプのヘッド消磁器で消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の取扱説明書をご覧ください。

MDのシステム上の制約

MDではいくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音時間に達していなくても、「Disc Full!」が表示される

255曲録音されると、それ以上の録音はできません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音するか、別のMDを使ってください。

曲数（最大255曲まで）にも録音時間にも余裕があるのに「Disc Full!」が表示される

エンファシス情報などが頻繁に変化する曲を録音したり、録音や編集をくり返し行うと、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「Disc Full!」が表示されます。

編集時に「Group Full!」が表示される

- グループ機能が働いているときに編集操作を行うと、「Group Full!」と表示されることがあります。この場合、グループ管理に必要な文字数が不足しています。ディスク名やグループ名などの不要な文字を削除してください。
- グループ機能が働いていないときでも、MOVE、DIVIDEなどの編集操作を行うと、グループ管理情報が更新されるため、「Group Full!」と表示されることがあります。

曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない

ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒*以下の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても、録音できる残り時間が増えないことがあります。

* ステレオ録音時。（モノラル、LP2ステレオ録音時は約24秒、LP4ステレオ録音時は約48秒）

次のページへつづく

曲を消したりつなごうとしたときに「Impossible」が表示される

何度も編集をくり返すと、「Impossible」が表示され、曲の一部分を消すことができなくなる場合や2曲を1曲につなげなくなる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間と一致しない

通常、録音は約2秒*を最小単位としてディスクに記録します。2秒*に満たない場合でも、実際には2秒*分のスペースを使います。このため、実際に録音できる時間は少なくなります。また、MDに傷があるとその部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

* ステレオ録音時。（モノラル、LP2ステレオ録音時は約4秒、LP4ステレオ録音時は約8秒）

編集した曲を再生しながら早送り、巻戻しすると音が途切れる

再生しながら早送り、巻戻しするときは通常より高速で再生します。このため、短い曲がディスクの上に分散していると探すのに時間がかかり、音が途切れることがあります。

曲番が曲の頭に付かない

レベルシンクロ録音中でも、次のときは曲番が曲の頭に付かないことがあります。

- 曲の間が短くて一定レベル以下になるのが2秒未満のとき
- 曲の途中でも2秒以上一定レベル以下になるとき
- 4秒*以下の曲を録音したとき

* ステレオ、モノラル、LP2ステレオ録音時。（LP4ステレオ録音時は8秒以下）

余分な曲が作られる

CDの曲間が長い場合、余分な曲が作られることがあります。

録音したトラック数が異なる

CDに短い曲が含まれている場合、録音しても曲番が付かず、CDとMDで曲数が異なることがあります。

デジタル録音の制約 — シリアルコピーマネージメントシステム

デジタルオーディオでは、音声信号をデジタルでやりとりします。コンパクトディスク（CD）、ミニディスク（MD）、デジタルオーディオテープ（DAT）、衛星デジタル音楽放送などがこれに当たります。これらは音楽を手軽に、劣化の少ない状態でコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。それが「シリアルコピーマネージメントシステム」です。本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

原則1

デジタル録音したものから、さらに他のデジタル録音機器（MDやDATデッキなど）へのデジタル録音はできない。

原則2

アナログ録音したものは、他のデジタル録音機器へ1度だけデジタル録音できる。

ご注意

- CMT-SE3につないだBSデジタル/デジタルCSチューナーからはデジタル録音できないことがあります。これは、放送局側で放送チャンネルや番組のデジタル録音を、禁止または制約する場合があるためです。
- 機器のアナログ入出力端子同士を接続してアナログ録音するときは、上記の原則にあたりません。
- 著作権を保護するためのコピーコントロール信号を除去、改変してコピーを作成することは、個人として楽しむ目的であっても法律で禁止されています。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
また、本機（MDS-SE9）の修理が必要になったときは、CMT-SE3もあわせてお持ちください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：MDS-SE9
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスクまたはテープ：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

入力端子	MD/TAPE：250mV、47kΩ DIGITAL OPTICAL MD（対応サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHz、PCM信号のみ）
出力端子	MD/TAPE：250mV、47kΩ DIGITAL OPTICAL MD（サンプリング周波数44.1kHz、MDのみ）

MDデッキ部

サンプリング周波数	44.1kHz
周波数特性	5Hz～20kHz

カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
周波数特性	ソニー TYPE Iカセット 50～13,000Hz

その他

電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	10W：通常動作時（JEITA*）
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き、最大突起部含む）	155×120×345mm
質量	4.0kg
付属品	デジタル接続ケーブル（2） オーディオ接続コード（2） USB接続ケーブル（1） はじめにお読みください（1） 取扱説明書（1） M-crew/Net MD対応SonicStage CD-ROM（1） 安全のために（1） ソニーご相談窓口のご案内（1） 保証書（1） カスタマー登録のお願い（1）

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

・主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
・主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
・キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
・システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません

用語解説

チェックアウト/チェックイン

チェックアウトとは、パソコン上の音楽データをMD機器へ高速転送すること。チェックインとは、チェックアウトした曲を転送元のパソコンに「戻す」こと。転送元とは異なるパソコンにチェックインすることはできない。

トラック

MDに記録されている曲の区切り（1曲分）。トラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

MDLP

1枚のMDの録音時間を2倍長（LP2）、4倍長（LP4）にすることができる技術。MDLPロゴの付いていないMD機器（MDLP非対応機器）では再生することができない。

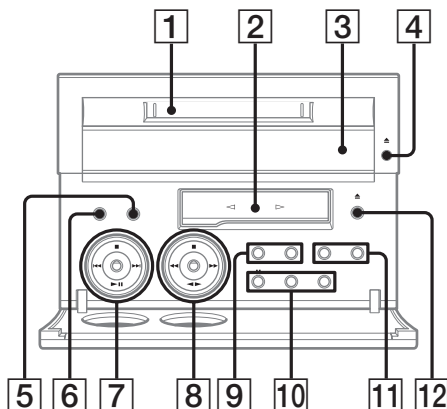
Net MD

パソコン上の音楽データをMD機器へ高速転送することができるMDの拡張規格。

TOC

MDの曲番（曲順）や曲の開始/終了点などの情報を管理している領域のこと。音楽領域とは別になっている。

各部のなまえ

本体

1 MDスロット（9ページ）

2 TAPEスロット（46ページ）

3 表示窓

4 ≜MD（MD取り出し）ボタン

5 NET MDボタン（53ページ）

6 DISPLAYボタン（12、20、50、52ページ）

7 MDスティック

■（MD停止）

⏮/⏭（前/次）

►❚❚（MD再生、一時停止）

8 TAPEスティック

■（テープ停止）

◄◄/►►（早戻し/早送り）

◄►（テープ再生）

9 MD録音用ボタン

REC MODEボタン（15、16ページ）

REC/REC ITボタン（19ページ）

10 TAPE用ボタン

❚❚（一時停止）ボタン

DIRECTIONボタン（18、46、48ページ）

RECボタン（49ページ）

11 SYNC REC用ボタン

MODEボタン（16、47ページ）

ENTER/STARTボタン（16、47ページ）

12 ≜TAPE（テープ取り出し）ボタン

次のページへつづく

表示窓

1 TOC表示（14、28ページ）

2 SHUF表示（10、27ページ）

PGM表示（10、11、27ページ）

REP/REP1表示（10ページ）

3 L-SYNC表示（22ページ）

4 DISC表示

GROUP表示

TRK表示

5 MONO表示（15、16ページ）

LP2表示（15、16ページ）

LP4表示（15、16ページ）

6 操作状況表示

7 MUSIC LIB表示（52ページ）

WEB RADIO表示（52ページ）

8 GROUP ON表示（17、33ページ）

9 録音表示

PC 表示

TAPE表示

MD 表示

►表示

◄表示

❚❚表示

10 DIRECTION設定表示（18、46、48ページ）

◄► （再生面/録音開始面）表示

OVER表示（26、44ページ）

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A-Z

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ　● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*…………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX……………………………… 0466-31-2595

受付時間：月〜金曜日 9:00〜20:00　土・日・祝日 9:00〜17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし，内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。

1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

Printed in Korea